

(2) 他ノ政務收入トノ別

(イ) 使用料トノ別 手数料モ使用料モ共ニ特殊報償ノ原則ニ從フト雖モ
手数料ニアリテハ其收入ハ國家ノ權力行使ニ隨伴シ使用料ニアリテハ其
收入ハ國家ノ營造物利用ニヨリテ生ス換言セハ前者ハ官廳ノ組織ヲ前提
トシ後者ハ公共營造物ノ存在ヲ前提トス又手数料ノ賦課ハ國家ノ行爲ヲ
標準トシ使用料ハ營造物ノ事態ヲ標準トス

(ロ) 特別課徴トノ別 使用料トノ區別ハ又手数料ト特別課徴ノ區別ニ移
シ用ユヘシ蓋シ特別課徴モ亦營造物ニ關スルモノナレハナリ

(ハ) 違法金トノ別 違法金ハ國家ノ給付ニ對スル反對給付ト見ルヲ得ス
即チ特殊報償ノ原則ニ從フモノニ非ス是レ手数料トノ根本的差異ナリ

(3) 租稅トノ別 租稅ハ國家カ公權力ニヨリ一方的ニ之ヲ定メ強制的ニ徵ス
ルニ於テ手数料ト異ナラスト雖モ租稅ニ在リテハ一般臣民タルノ地位ニ基
キ即チ一般報償ノ原則ニ從ヒ租稅義務ヲ負フモノニシテ國家ノ特別ナル行
爲ニ對シ報償トシテ之ヲ納ムルモノニ非ス從テ手数料ノ如ク國家ノ行爲ヲ
求メ又ハ煩ハスニ因リテ始メテ其義務ヲ生スルモノニ非ス

第二 手数料ノ高

手数料ハ國家ノ給付ニ對スル反對給付ナリ給付ト反對給付トハ互ニ相適應セザ
ルヘカラス從テ手数料ノ高ハ國家ノ給付ニ適應スル點ニ於テ之ヲ決スヘク之カ
爲ニハ先ツ國家ノ給付ノ價值ヲ判斷セサルヘカラス其標準ニアリ

(一) 費用補填主義 國家カ其私人ノ爲ニ行爲スルニ依リ要スル費用ヲ補填ス
ルヲ趣旨トス而シテ其費用ノ範圍ハ特定私人ノ爲ニ官廳カ特ニ要シタル費用
ニ止マルヘキモノトス

此主義ハ國家ノ行爲ノ價值カ其行爲ノ爲ニ要シタル費用ニ依リテ定マル場合
ニハ眞理ナリ然レトモ國家ノ行爲ノ價值ハ必スシモ其費用ニ適應セス且此主
義ニ依レハ同一種類ノ行爲ニ對シテハ常ニ同額ノ手数料ヲ徵セサルヘカラス
以テ現今ノ手数料ヲ説明スルヲ得ス

(二) 利益報償主義 國家カ行動スルニ依リテ個人ノ受タル利益ヲ標準トシテ
之ニ報償スルヲ趣旨トス然レトモ個人ノ受タル利益ハ人ニ依リテ之ヲ感スル
コト同シカラス從テ此主義ニ依レハ各個人ニ就テ常ニ特別ノ手数料ヲ定メサ
ルヘカラス又以テ現今ノ手数料ヲ説明スルコト能ハス

(三) 結論 惟フニ國家ノ行爲ノ價值ト云ヘハ少クトモ社會的客觀的價值ナラ
サルヘカラス即チ普通ノ場合ニ普通ノ人カ利益ヲ如何ニ評價スルカニ依リテ

手数料ノ高

之ヲ定メサルヘカラス從テ其評價ハ事情ノ數スルニ從ヒ社會ノ進歩スルニ伴ヒ變スルモノトス然レトモ國家ノ行爲ニヨリ個人カ直接利益ヲ得サル場合ハ國家カ之ニ費スヘキ經費ニ依リテ之ヲ評價スルノ外ナカルヘシ

第三 手数料ノ賦課徴收

(一) 手数料ノ賦課 手数料ヲ賦課スル標準ニヨリ區別スレハ左ノ二トナル

(1) 一般手数料 外形ノ標準ニヨリ一般的ニ定ムル手数料ナリ此種ノ高ハ概ネ費用ニヨリテ之ヲ決ス而シテ其費用ハ經驗ニ基キ(見積費用ノ平均額)可成事實ニ近キモノヲ計算ス國家ノ行動スルニ當リ文書ヲ必要トスル場合ニ之ヲ見ル官廳ニ差出ス諸種ノ願書其他ノ書類官廳ノ裁決書出廷召喚狀覺書免狀資格證明等ノ如シ

(2) 特別手数料 國家ノ個々特別ノ行動ニ對シ個々特別ニ定ムル手数料ナリ故ニ此手数料ハ個別的獨立的變動的ナリ

(二) 手数料ノ徵收方法

(1) 個別手数料ト總括手数料 個別手数料トハ官廳ノ個々ノ行動又ハ個々ノ書面ニ就キ個々別々ニ計算シ課徵スルモノヲ云フ
總括手数料トハ手数料ヲ拂フヘキ多數ノ場合ヲ總括シテ一纏トシ又ハ之ヲ

手数料ノ賦課徴收

數部類ニ別チ其一纏メ又ハ各部類ヲ一單位トシテ計算シ之ニ一定ノ手数料ヲ課スルヲ云フ

(2) 間接徵收方法ト直接徵收方法 間接徵收方法トハ文書ニ印紙ヲ貼用セシメ又ハ押印用紙ヲ使用セシメテ手数料ヲ徵收スル方法ナリ故ニ又印紙徵收方法トモ云フ一般手数料ノ徵收ニハ此方法ヲ用フルヲ適當トス直接徵收方法トハ當事者ノ煩ハシタル當該官廳若クハ特別收入官廳ニ對シ直接ニ現金ヲ以テ手数料ヲ支拂フ方法ナリ故ニ特別手数料總括手数料徵收ニ最モ能ク適用セラル

第四 手数料ノ組織

(一) 司法手数料 司法手数料トハ裁判其他司法ニ對スル特別報償ナリ而シテ裁判所ノ行動ハ訴訟ト非訟トニ分ツ故ニ手数料ニモ此ノ別アリ
(1) 訴訟手数料

(イ) 民事訴訟手数料 訴訟物件訴訟ノ種類訴訟手續上ノ種々ノ要素繫争物件ノ價格裁判所ノ審級等種々ノ標準ニ依リ大體ニ階級ヲ付シテ之ヲ定ム

(ロ) 刑事訴訟手数料 刑事訴訟ニ於テ手数料ヲ收ムルモノハ必スシモ經

濟上ノ利益ヲ受クルモノニ非ス故ニ刑事訴訟手数料ハ主トシテ國家權力ノ行使ニ對スル特殊報償ト見ルヘシ故ニ檢事カ職權ニヨリテ公訴シ又ハ第三者ノ告訴アリタル場合ニ於テモ犯罪者ハ手数料ヲ納メサルヘカラス蓋シ公ノ秩序ヲ紊リ權利ヲ侵シ裁判所ヲ煩ハスニ至レル人カ其訴訟ノ爲メ國家ノ費ス經費ノ少クトモ一部ヲ負擔スルハ正義ニ合スレハナリ

(2) 非訟事件手数料 訴訟ニ非サル民事事件ニ關シ私人カ裁判所ヲ煩ハス場合之ヲ徵スルモノナリ例之無能力者ノ行爲ノ無效取消失踪ノ宣告登記登錄ノ如シ

手数料ノ組織

- (一) 行政手数料 行政ニ伴フ手数料ナリ司法手数料ノ外總テノ手数料ヲ包括ス行政手数料ノ司法手数料ト異ルノ要點ハ前者ニアリテハ國家ノ行動カ主トシテ個人ノ利益進捗ノ結果ヲ來ス場合ニ之アリ反之後者ニアリテハ國家ノ行動カ主トシテ國家社會全體ノ利益ニ歸シ其個人ノ利益ニ及ホス影響ハ第二段ノモノタル場合ニ之アリト云フヘシ
- (1) 實質的分類 行政機關ノ行爲ニ依ル分類ナリ
- (イ) 檢定料 行政官廳カ人又ハ物ニ就テ試験シ検査スル場合ノ手数料ナリ試験料検査料分析料等ノ如シ

- (ロ) 證明料 個人ノ身分資格權利其他個人若クハ物件ニ關スル一定ノ事實ヲ證明スルニ對シテ納ムヘキ手数料ナリ身分資格登錄手数料戶籍ニ關スル手数料諸謄本抄本手数料ノ如シ
- (ハ) 特許料 特許ヲ與ヘタルニ對シテ徵スヘキ手数料ナリ
- (ニ) 免許料 許可ヲ與ヘタルニ對シテ徵スヘキ手数料ナリ
- (ホ) 榮典授與料 榮典ノ授與ハ元首ノ大權ニ屬ス其授與ニ對シテ手数料ヲ徵スルハ大權發動ノ精神ヨリ見レハ妥當ヲ缺ク
- (2) 形式的分類 行政機關ニ依ル分類ナリ
- (イ) 外務手数料 外務本省ニ於テ徵收スルモノト在外公館ニ於テ徵收スルモノトアリ
- (ロ) 内務手数料 内務行政ニ關シテ徵スル手数料ニシテ狩獵免許料衛生手数料ノ如シ
- (ハ) 財務手数料 財務行政ニ關シテ徵スル手数料ニシテ租稅滯納督促料國債手数料ノ如シ
- (ニ) 文化手数料 文化行政ニ關シテ徵スル手数料ニシテ教科書檢定料試驗料ノ如シ

(ホ) 經濟手数料 經濟行政ニ關シテ徵スル手数料ニシテ諸檢定料監督手数料免許料ノ如シ

第二節 使用料

第一 使用料ノ本質及高

(一) 使用料ノ本質 使用料トハ一定ノ營造物ヲ使用スルニ依リテ得ヘキ利便ニ對スル報償トシテ徵收スル公課ナリ其手数料トノ區別及私經濟的收入トノ區別ハ既ニ手数料ノ本質ニ於テ述ヘタル所ニヨリテ明カナリ

(二) 使用料ノ高 使用料ハ營造物ノ使用ニ對スル報償ナルカ故ニ特別報償主義ヲ本則トシテ從テ使用料ノ高ヲ定ムルニモ手数料ノ高ヲ定ムル原則ヲ準用セサルヘカラス即チ費用補填主義若クハ利益報償主義ニ依ラサルヘカラス但費用補填主義ニ關シテ學者或ハ使用料ヲ以テ營造物ノ經營費ヲ支辨スルニ止マラス其建設費ヲモ支辨スヘシト爲スアリ更ニ進ンテ改良費維持費ヲ支辨スヘシトナスモノアリ然レトモ此ノ如キ純益ヲ得ルコトヲ目的トスレハ營造物ハ同時ニ公企業トナリ其收入ハ使用料ト看做スヘカラス故ニ使用料タルニハ其補填スヘキ費用ハ之ヲ使用スルニ依テ生スヘキ特別ノ費用即チ經濟費ニ止

使用料
ノ本質
及ヒ高

使用料
ノ組織

メサルヘカラス

第二 使用料ノ組織

- (一) 教育的營造物使用料 文化行政ノ爲ニスル營造物ヲ利用スル者ノ納ムヘキ使用料ナリ教育的營造物ハ學校美術館圖書館博物館動物園植物園等ヲ主タルモノトシ從テ此等ノ使用料ハ授業料ト入場料トニ分ツコトヲ得
- (二) 保健的營造物使用料 保健ノ目的ノ爲ニスル營造物ヲ利用スル者ノ納ムヘキ使用料ナリ保健的營造物ノ主ナルモノハ普通病院癲狂病院養老院墓地火葬場屠獸場消毒所洗濯所浴場等トス
- (三) 國民經濟的營造物使用料 經濟行政ノ目的ノ爲ニスル營造物ヲ使用スル者ノ納ムヘキ使用料ナリ國民經濟的營造物ハ造幣局倉庫各種試驗場交通運輸機關ヲ主タルモノトシ從テ此等ノ使用料ハ造幣料倉敷料試驗場使用料交通機關使用料等トス

第三節 特別課徵

第一 意義

特別課徵トハ國家公共團體カ公益ノ爲ニ營造物ヲ新設シ又ハ之ニ格段ノ改良ヲ

行フニ際シ其爲ニ要スル經費ヲ之ニ依リテ特別ノ利益ヲ得ル者ヲシテ受益ノ程度ニ比例シテ負擔セシムル課金ヲ云フ其主ナルモノハ道路橋梁公園堤防水道溝渠街燈設備等ナリ

第二 手数料使用料トノ差

特別課徴モ亦特ニ利益ヲ受クル者ニ課スルカ故ニ特殊報償ノ原則ニ從フト雖モ其營造物ノ新設改良費ヲ辨スルヲ目的トスル點ニ於テ手数料使用料ト異ル其課徴方法ニ於テモ原則トシテ一時限リノモノトシ手数料使用料ノ如ク國家ヲ煩ハス毎ニ又ハ營造物ヲ使用スル毎ニ課徴スルモノニ非ス

第三 目的税トノ差

特別課徴ハ目的税ニ相似タル所アリト雖モ目的税ハ擔税ニシテ租稅力ニ應シテ之ヲ課スルヲ本則トスルニ反シ特別課徴ハ利害關係者ノ受クヘキ利益ニ比例シテ之ヲ課スルノ點ニ於テ異レリ

第四 我國ニ於テハ法規上特別課徴ノ制ヲ認メサルニ非スト雖モ(市制一二二條町村制一〇二條)實際ニ於テハ見ルヘキモノナシ

特別課
徴

第五章 非經濟的收入

政府ハ往々財政困難ナルカ爲メ寄附ニ依リテ事業ヲ爲スコト屢々行ハレタリ特ニ甚ダシキハ地方團體ヨリ寄附ヲ受クルモノ尠ナカラス然レトモ之カ爲メ地方ノ財政ニ惡影響ヲ及ホスコト大ナルモノアリ
其ノ外不用物品ノ賣却代金罰金材料及ヒ沒收金又ハ債金貢納金分取金等アルモ是等ハ財政學上攻究ノ目的物ニ非ス

第四編 公債論

第一章 總論

第一 收支ノ適合

國家ノ歲入歲出ハ相適合スルヲ尊フ即チ財政ノ特質ハ出ツルヲ量リテ入ルヲ定ムルニ在リ從ツテ支出ニ適合スル收入アレハ足ル政テ剩餘金ヲ生スルコトヲ要セス然レトモ又必要ノ經費ニ對シテハ必ス之ヲ支辨スルニ足ル收入ナカルヘカラス依是觀之財政整理ノ道ハ收入支出ノ均衡ヲ得ルニ在リ收支ヲシテ均衡ヲ保タシムルノ方針ハ先ツ豫算ニ於テ實現セサルヘカラス收支ノ均衡カ豫算上ニ維持セララル以上ハ財政ハ形式的ニ整ヘルモノト云フヘシ然レトモ實際ニ於テハ或ハ收入ヲ以テ經費ヲ支辨シ得サルコトアリ或ハ收入ハ却テ經費ヲ超過スルコトアリ前者ヲ不足金ト云ヒ後者ヲ剩餘金ト云フ斯ク歲計ニ不足ヲ生シ或ハ剩餘ヲ生スルコトアリテハ財政ハ實際的ニ整ヘリト云フコトヲ得ス是ニ於テ財政ニハ形式的調整ト實際的調整トアルヲ知ル

收支ノ適合

財政ノ形式的調整ヲ得ントセハ財政ノ實質的調整ヲ得サルヘカフス財政ノ實質的調整ハ經費ニ應スヘキ適當ノ收入ヲ工面スルニ依リテ之ヲ期スヘシ是ニ於テ經費支辨方法ニ關スル原則ヲ生ス

第二 經費支辨方法

(一) 經費支辨ノ原則 之ニ關シテハ既ニ經費論ニ於テ之ヲ論シタルヲ以テ略述ス要之經費支辨ニ關スル根本原則ハ左ノ如シ

- (1) 經常費ハ唯經常收入ニヨリテ之ヲ支辨スヘシ
 - (2) 臨時費ハ經常收支並ニ臨時收入ニ依リテ之ヲ支辨スヘシ
- (二) 公債ト租稅 臨時不足ノ補填手段トシテ諸種ノ財源ヲ舉ケシカ今公債ト租稅トヲ比較セン即チ臨時不足ノ場合ニ於テ經費ノ種類ニヨリ公債租稅何レノ財源ニヨルヘキカラ研究スヘシ

(1) 臨時費ノ中經濟的臨時費ト云フヘキモノアリ更ニ之ヲ分析スレハ私經濟的ノモノト然ラサルモノアリ例ヘハ私經濟的ノ臨時費トハ鐵道製鐵所其他收入ヲ以テ元資ヲ償却シ得ル官業ノ創設ノ費用ノ如キモノナリ斯カルモノハ主トシテ公債ニ財源ヲ仰クコト適當ナリ(2) 反之收益ヲ目的トセサル經濟的臨時費(或ハ國家經濟的臨時費トイフ人アリ)ハ租稅ニヨルヲ適當トス

レトモ築港費ノ如キハ公債ニヨルモ可ナリ(3) 經濟的臨時費ニ非サル戰費ノ如キモノニ付テハ公債租稅ヲ併用スルコト必要ナリ

鐵道ノ如キハ其收入ニヨリテ之カ利子ヲ支拂ヒ且元本ヲ償却スルヲ得ルモノナレハ公債ニヨリテ之ヲ創設擴張スルコト適當ナリ電信電話事業ハ收益ヲ目的トスルモノニハ非サレト事實上相當ニ收入アルモノナレハ公債ニヨルコト至當ナリ專賣事業ノ創設モ同様ナリ直接ニモ間接ニモ收入ヲ生セスト見ルヘキハ軍艦製造陸軍増設ノ費用等ノ如キモノノ財源ハ之ヲ公債ニ仰クハ不當ナリ若シ公債ノ手段ニ依ルトキハ結局其元金利息皆租稅ニ依リテ支拂ハサルヘカラサルカ故ニ始メヨリ租稅ニテ之カ支辨ヲナスヘキナリ然ルニ一方道路ヲ造リ河川ヲ改修シ港灣ヲ築クカ如キハ直接ニハ收入ナシト雖モ間接ニハ之ニヨリテ一般ノ增收ヲ得ヘシ是レ必スシモ公債ニヨルヲ不可ナリトセス特ニ短期間ニ此等ノ事業ヲ完成スルノ要アル場合又ハ間接生産ノ效果強キ場合ニハ公債ニヨルコト不可ナラサルナリ例ヘハ築港ハ短期ニ多額ノ費用ヲ要スルカ故ニ之ヲ公債ニ仰クコト現ニ一般ノ是認スル所タリ今戰爭ノ費用ニ關シ左ニ馬場博士ノ說ヲ掲クヘシ

トアリ然レトモ戰費ハ今日ニ於テハ極メテ巨額ナルカ故ニ固ヨリ非常準備金ニ依頼スハカラス結局公債租稅ヲ併用スルノ外ナカルヘシアダムスミスハ租稅ノミニヨラントシ公債ヲ排斥スレトモ今日ニ於テハ租稅ノミニヨルコトハ到底不可能ナリ資金調達ノ遲速ヲ考フレハ主トシテ公債ニヨルコトハ避クヘカラス然ラハ公債ニヨリテ主トシテ戰費ヲ支辨スルトキハ租稅ハ不用ナルヤト云フニ然ラス少クモ租稅ノ最少限度トシテ考フルモ學者ノ所謂直接戰費ニ對スル間接戰費又積極的戰費ニ對スル消極的戰費ノ支辨上最少限度ニ於テモ必要ナリ間接戰費ト云ヘハ積極戰費ノ爲メ募リタル公債ノ利息ヲ支拂フカ爲ニ要スルモノナリ戰爭ノ負擔ヲ後世ニノミ殘スハ不可ナリ故ニ戰費ノ一部ヲ現代ノ租稅ニテ負擔スヘキノミナラス國家ノ財政ヲ紊亂セシメサル爲ニハ出來得ル限リ公債ノ額ヲ低カラシメ又公債ノ利息ヲ租稅ニテ支拂フヘキハ當然ナリ又消極的戰費トハ戰爭ナカリセハ收入減少トナ得ヘカリシ租稅ノ收入ノ減少ヲ補充スル爲メ其他戰爭ノ爲ニ收入減少ヲ來タセル各種財源ノ補填ハ更ニ新稅又ハ增稅ニ依ラサルヘカラス以上ハ公債租稅併用ノ最少限度ナリ之レ以上ニ租稅ニ財源ヲ求ムル必要ナキヤ若シ租稅カ間接戰費及消極戰費ニ限ルモノトセハ後世ニ負擔ヲ殘スコ

經費支辨方法

- ト餘リニ大ナルモノアリ故ニ出來得ル限リ租稅ヲ利用スヘシ又財政信用ノ上ヨリ云フモ出來得ル限リ直接戰費及積極戰費ヲモ租稅ニ仰クヲ可トスルナリ然レトモ事極端ニ進ムヘキニ非ス但シ戰時利得ハ充分ニ之ヲ國民ニ課シ戰時ニ於ケル國民ノ利得者ヲシテ國家ニ奉公セシムヘキナリ(馬場博士)
- (三) 戰費支辨方法 戰費ハ臨時費ノ中其額莫大ナルノミナラス一國財政ノ全體ヨリ見ルモ經費中ノ大部分ヲ占ムルコトアリ從テ之ニ關シテハ特ニ研究スヘキ問題アリトス分チテ二トス
- (1) 戰時稅戰時公債選擇ノ問題
- (イ) 戰費支辨方法トシテハ戰時公債ニヨルヘシ 蓋シ現代ニ於ケル戰爭ハ其來ルヤ急ニシテ規模ハ大ナリ而モ容易ニ和ヲ講セス從テ財政ハ戰費ノ急速性ニモ應シ其永續性ニモ適シ且ツ其巨額ニ應スルモノナラサルヘカラス之ヲ戰時稅ニヨリテ支辨セントスルモ戰時稅ハ急速ニ巨額ノ收入ヲ得ルコト能ハス又如何ニ富メル國ト雖モ一年數百億圓ニ上ルヘキ戰費ヲ租稅ヨリ捲リ取ルコト能ハス故ニ戰費ハ大體ニ之ヲ公債ニヨリ支辨スルコトトナルナリ
- (ロ) 間接戰費消極的戰費ハ戰時稅ニヨルヘシ 間接戰費トハ戰時公債ノ

利子ノ支拂ニ要スル費用ヲ云ヒ消極的戰費トハ戰爭ニヨリ租稅收入ノ減少ヲ云フ此ノ兩者ハ共ニ戰爭ニヨリテ生スル費用又ハ填補スヘキ缺損ナルヲ以テ亦戰費トナスコトヲ得ヘシ而シテ之ヲ合算スルトキハ其額決シテ僅少ニ非ス之ヲ若シ戰時公債ニヨリテ支拂セシカ戰時公債ハ累積シテ止マサルノミナラス公債利子ハ他ノ公債ノ手取金ニヨリ支拂フコトナリ死ニ或種ノ經常費モ公債ヲ以テ支拂スルコトトナルヘク是レ健全ナル財政政策トシテ採ルヘキニ非ス故ニ間接戰費消極的戰費ハ租稅ニヨリテ辨セサルヘカラサル所以ナリ是レ實ニ戰時稅ノ最少限ニシテ富メル國ニ於テハ之ヲ超エテ一般戰費ヲモ支拂シ得ヘキノミ而シテ所謂消極的戰費ハ戰爭ト共ニ生シ間接戰費ハ戰時公債ヲ起スト共ニ生スルモノナレハ戰時稅ハ戰爭ノ初メヨリ之ヲ起ササルヘカラス

- (2) 戰爭準備金(非常準備金)問題 非常準備金又ハ戰爭準備金トハ國家力平時ニ於テ金銀塊若クハ金銀貨ヲ蓄積シテ一朝事アル際ニ備ヘントスルモノナリ又戰費支拂方法ノ一ニ外ナラス戰爭準備金ニ關シテハ種々ノ議論アリ
- (イ) 戰爭準備金絕對辯護論 內務學派重農學派若クハ正統經濟學派ノ主張スル所ニシテ其要旨ハニアリ即チ一ハ公債ハ害惡ナリトノ偏見ニ基キ

公債ヲ排斥シ從テ戰爭準備金ヲ辯護スルモノニシテ他ハ戰爭準備金ノ積極的利益ヲ説キ一朝事アルニ際シ準備金ヲ開放セハ金融ノ逼迫ヲ緩和シ戰爭ノ爲ニ生シ易キ信用ノ缺乏ヲ防止スルコトヲ得トナスモノ是ナリ

(ロ) 戰爭準備金排斥論 其要旨左ノ如シ 戰爭準備金ハ不十分ナリ近世ノ戰費ハ巨額ニシテ到底少額ノ準備金ヲ以テハ其目的ヲ達スルコト能ハス而シテ平時ニ於テ巨額ノ準備金ヲ積ムコトハ容易ニ期スヘカラス戰爭準備金ハ現今ニ於テ不必要ナリ現今ノ國家ハ信用ニヨリテ容易ニ軍資金ヲ調達シ得ヘク戰爭準備金ハ經濟上有害ナリ第一ニ利子ヲ損シ第二ニ一般ノ流動資本ノ利子ヲ高メ第三ニ經濟上ノ發達ヲ害ス戰爭準備金ハ政治上有害ナリ君主竝ニ政府ハ或ハ輕舉ニ干戈ヲ動カシ或ハ他ノ目的ニ流用シ議會ハ之ヲ抑制スルコト能ハス又戰爭準備金ハ道德上不正ナリ社會ノ進ムニ從テ富ヲ増加スルモノニシテ戰爭準備金ハ實シキ現代ニ負擔セシメ富ムヘキ將來ニ免レシムルコトトナルヘク正義道德ニ反ス

(ハ) 戰爭準備金關係的辯護說 其要旨ヲ見ルニ不必要ノ非難ニ答ヘテ曰ク然ラス何トナレハ公債ハ常ニ自由ニ之ヲ起シ得ルモノニ非サレハナリ又不十分ノ非難ニ答ヘテ曰ク然ラス戰爭準備金ノ目的ハ戰費金額ヲ支拂

セントスルニ非ス開戦ノ際短時間ニ戦備ヲ整ヘ其機先ヲ制スルニ在リ故ニ多額ヲ要セスト又經濟上有害ノ非難ニ答ヘテ曰ク然ラス戦争準備ノ效用ハ國家及國民經濟上安全ノ擔保ヲ與フルニ在リ國庫ニ藏スルノ故ヲ以テ死蔵トナスヘカラス又政治上有害トノ非難ニ答ヘテ曰ク初メヨリ動員以外ノ目的ニ使用スヘカラサルコトヲ定ムレハ可ナリ權力ノ濫用ヲナス政府ハ之ナクトモ不法ノ行動ヲ防キ得サルヘシト尙ホ積極的ニ其必要ヲ説イテ曰ク戦争準備金ハ國境ノ地理上ノ性質上開戦ノ際或地點ノ占領ヲ必要トシ且國家ノ地位ニシテ戰時ニ於ケル危險ノ程度大ナル國ニ於テハ宣戦ノ前後ニ動員ヲ行フ必要ノ爲ニ短時ニ少ナカラサル金額ヲ要シ準備金ナクハ之カ爲ニ大ニ信用ヲ動搖セシメ有價證券ノ暴落ヲ來スヘシト

(四) 結論 惟フニ絶對的辯護論ハ信用經濟ニ入ラサル社會ニトリテハ眞理タルヲ失ハス(公債ニヨルヲ得サレハナリ) 排斥論ハ信用經濟ノ社會ニテハ頗ル有力ナル議論ト云ハサルヘカラス關係的辯護論モ國家ノ地位ニヨリテハ大ニ意味アリト云フヘシ今現代ニ立チテ之ヲ見ルトキハ絶對的辯護論ハ先ツ捨テサルヘカラス而シテ後ノ兩者ニ至リテハ輕々ニ斷スヘカラサルモ日本ノ如キハ寧ろ關係的辯護論ヲ採ルヘキニ非サルカ蓋シ我國カ荷モ東洋ニ專ラ構フ

ル以上ハ其動員ノ前後遲速ハ重大ナル關係ヲ有シ而シテ動員ノ迅速ヲ期スルカ爲ニハ戦争準備金ヲ置クヲ可トシ之カ爲ニ失フ平時ノ利子ノ如キハ動員ノ迅速ニ比シ輕シト云フヘシ且ツ戦争開始ニ際シ一時借上金ヲナストキハ其利子モ高ク假令後日公債ヲ起レテ一時借上金ヲ返却スルトモ其公債ノ利子ハ其利廉ナラサルヘク從テ戦争準備金ナキカ爲ニ生スル多額ノ利子ハ以テ準備金ノ平時ノ利子ト相殺スルニ足ランカ

第三 剩餘金

國家財政ハ大體論トシテ必要ナル經費ニ對スル充分ナル收入アルノミヲ以テ満足セサルヘカラス國庫收入ノ剩餘多キヲ望ムヘカラサルナリサレト國家ハ活物ナリ國家ノ收入支出カ豫算ノ通り收支セラレ全然過不足ナキコトハ實際上困難ナリ

(一) 剩餘金ノ發生理由

- (1) 決算上ノ剩餘金ハ好景氣ニヨリテ生スルコトアリ 蓋シ好景氣ハ私經濟的收入ヲ多クスルノミナラス租稅收入ヲモ大ナラシムレハナリ
- (2) 豫算ノ編成方針ヨリ來ルコトアリ 經費ヲ見積ルコト比較的高ク收入ヲ見積ルコト比較的低キ場合はナリ其額大ナルニ及ンテ剩餘金ハ豫算見積リ

- ノ不的確ヲ反證シ財政上慶スヘキコトニ非ス
- (3) 行政財政整理ノ結果生スル場合アリ 即チ行政財政ノ整理ニ依リ經費ノ節減又ハ事業ノ繰延ニ依リ財源ノ捻出ナリ

剩餘金

- (二) 剩餘金ノ用途
 - (1) 廢減稅 巨額ノ剩餘金年々繰返サルルトキハ收入多キニ過クルモノナルヲ以テ惡稅ノ廢減ヲナスヘシ然レトモ租稅制度ノ完備セル所ニテハ一稅ノ廢減ハ租稅負擔ノ不公平ヲ來スコトナシトセス如斯キ場合ニハ容易ニ之ヲ行フヘカラス
 - (2) 國債ノ償還 剩餘金ハ公債償還ノ好個ノ財源ナリ償還スル額ニ應シテ其利子ヲ減シ得ルカ故ニ租稅制度ニシテ從來ノ儘ナルトキハ其レタケ又收入ノ剩餘ヲ生ス
 - (3) 新事業費 新事業費ヲ公債ニヨリ辨スルトキハ一方ニ公債ヲ償還スルモ結局公債ノ減少ヲ來サス故ニ寧ロ起債償還ノ二ノ手續ヲ省キ公債償還ノ財源トスヘキ剩餘金ヲ以テ直チニ新事業ニ充ツヘキナリ新事業カ國家ノ爲極メテ必要ニシテ而モ急ヲ要スルトキ殊ニ然リトス
 - (4) 緊急ノ新事業費ノ外必要避クヘカラサルノ經費ニ充ツルモ亦剩餘金使用

ノ一方法ナリ

要之剩餘金使用ノ方法ハ多々アレトモ何レカ其當時ニ最モ重キカ又急ヲ要スルカニ依リテ其用途ヲ決スヘキナリ

第四 不足金

(一) 金庫不足

金庫不足トハ豫算實行ノ中途ニ於テ一時的ニ生スル不足ナリ詳言スレハ國庫金ノ在高カ其時ノ經費ヲ支辨シ得サル状態ナリ此種ノ不足ハ金庫ノ計算上ニ於テ現ハレ來ルカ故ニ金庫不足ノ名アリ

(1) 金庫不足ヲ生スル場合

- (イ) 收入豫算ニ於テ豫定ノ時ニ豫定額ヲ得ル能ハサル場合 即チ納稅期間ニ於テ租稅ヲ納メサルニヨリテ生スルコトアリ又ハ非常ノ事變起ルニヨツテ收入ノ不足ヲ生スルコトアリ
- (ロ) 支出豫算ニ於テ豫定額ヲ超ユル支出ヲ要スル場合 豫算ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出之ナリ之ニ對シテ豫備費ノ設アリ
- (ハ) 經費支辨カ豫期收入ニ先ツ場合アリ
- (2) 補填方法 金庫不足カ一時的不足ニ止マル以上ハ近キ將來ニ於テ收入ノ支出ニ超ユル状態ヲ豫期シ得ヘシ少クトモ一會計年度ノ終リマテニハ支出

ニ應スルノ收入アルヲ以テ一時之ヲ大藏省證券ノ發行ニ求メ或ハ中央銀行ヨリノ一時借上ニ求ム所謂流動公債是ナリ更ニ進ンテ國庫ニ相當ノ運轉資金ヲ準備スルモ一策ナリ

(二) 眞正不足 眞正不足トハ經費ヲ支辨スルニ足ル丈ノ收入存セサルノ状態ナリ此ノ如キ不足ハ經常豫算ニモ現ハレ又臨時豫算ニモ現ハル前者ヲ經常不足トシ後者ヲ非常不足トスヘシ

(1) 經常不足 經常不足トハ經常費カ經常收入ニ超ユル状態ナリ此種ノ不足ハ財政計畫ノ宜シキヲ得サルヨリ來ル之ヲ根絶スルニハ財政計畫ヲ改ムルノ外ナシ即チ經常費ヲ減スルカ若クハ經常收入ヲ増スカノ二途ニ出テス經常費ニシテ冗費ト認ムヘキモノハ之ヲ削減スルニ難カラサルモ膨脹ノ大勢アル現代ニテハ常ニ此方法ニヨルヲ得ス從テ經常收入ノ増加ヲ計ルヘク此カ爲ニハ増稅若クハ官業ノ擴張ニ依ルノ外ナシ若シ夫レ公債ヲ起シテ一時ヲ避クルカ如キハ經常費ヲ支辨スルニ臨時費ヲ以テスルモノニシテ財政整理ノ根本原則ニ反ス

(2) 非常不足 非常不足トハ經常費ニ超過スル經常收入ヲ以テシテハ臨時費ヲ支辨スルニ足ラサルヲ云フ從テ問題ハ臨時債支辨方法ニ歸著ス

不足金

非常不足補填ノ方法トシテ採用セラルルモノハ前年度ノ剩餘金債金賦納金官有財産拂下非常準備金増稅起債等一ニシテ足ラス

(イ) 前年度ノ剩餘金 ハ常ニ必スシモ之ヲ存スルト限ラス假令之ヲ存スルモ減債減稅ニ比シ尙更ニ重要ナリト決定セサレハ非常不足ニ充ツヘカラス

(ロ) 債金 ノ如キハ偶然ノ出來事ニカカル

(ハ) 賦納金 國ニヨリテハ特殊ノ臨時費ニ就テ少クトモ其一部ヲ支辨スルノ方法トシテ之ヲ受クルヲ慣例トスルモノアリ我國ノ學校創設費ノ一部ヲ之ニ仰クカ如シ此方法ハ濫ニ競争的運動ヲ起スノミナラス行政府モ爲ニ不知不識情實的ニ政務ヲ執行スルニ至ルヘシ

(ニ) 官有財産ノ拂下 之ヲ非常不足ニ充ツルハ例外ニ屬スヘシ蓋シ官有財産ハ有限ニシテ且之ヲ拂下クルモ巨額ノ代金ヲ得難ケレハナリ

(ホ) 非常準備金 戰費其他非常費支辨ノ一方法トスヘキコト前述ノ如ケレトモ之ヲ以テ非常不足補填ノ常道トナスコトヲ得ス

(ヘ) 租稅ノ新設稅率ノ増加 モ亦非常不足補填ノ一方法トスヘシト雖モ(經費支辨方法參照)租稅ノ課徵ニハ限度アリ從テ此ノ方法モ多額ノ臨時

費ヲ支辨スルニハ寧ロ補充的ニ之ヲ認ムヘキナリ
 (ト) 起債 以上論スル所ニヨリ何レモ非常不足ノ填補ノ常道トシ採ルヘ
 キモノナク從テ主トシテ公債政策ニヨラサルヘカラサルニ至ル公債論ヲ
 以テ收支均衡論トナス所以ナリ

第二章 公債ノ意義

第一 公債ノ意義

公債ハ國家公共團體ノ債務ナリ此語ハ時ニ公債ノ募集等ノ起債行爲ヲ指スコト
 アルモ起債行爲ハ國家公共團體カ資金ノ供給ヲ民間ヨリ得之ニ對シテ將來ノ反
 對給付ヲ約スルモノニシテ之ニヨリ得タル資金ヲ以テ非常不足ノ填補ニ充ツル
 ナリ故ニ嚴格ニ云ヘハ起債行爲ハ臨時收入ヲ形クルモノニシテ公債ハ其ノ結果
 トシテ生スルモノナリ

第二 公債ト私債トノ別

公債ヲ以テ私債ト同一視シタル學者少カラスト雖モ近世ノ財政學者ハ概ネ公債
 私債ノ別ヲ説クニ至レリ其ノ論區々ニ分レ或ハ起債ノ原因ニ區別ヲ求メ或ハ募
 集方法募集資本利子ノ要素期限償還義務償還資金等ニ區別ノ標準ヲ求ムルモノ

アリト雖モ公債私債ノ別ノ存スル所ハ債務者ノ國家タルト私人タルトニ在リト
 云フヘシ而シテ國家ノ私人ト異ル基礎ハ公權力ノ主體タルト其生命ノ無窮ナル
 トニアリ

(一) 之ヲ法律上ヨリ云ヘハ

(1) 國家公共團體ハ一朝國難アルニ際シ公權力ヲ用ヒテ其公務ヲ取消スコト
 ヲ得是レ私債ニ見ルヲ得サル所トス然レトモ斯ノ如キハ畢竟國家ノ破産ナ
 ルヲ以テ現今ノ國家ノ爲ササル所ニ屬ス

(2) 然レトモ生命ノ無窮ナルコトヨリシテ私債ニ見サル永遠公債ヲ生シ來ル
 ナリ無期ニシテ債權者ニ償還請求權ヲ與ヘサルモノ是ナリ

(3) 私債ニ於テハ債務不履行ノ場合ニ於テ強制手段備ハレトモ公債ニ於テハ
 之ナシ然ラハ公債ニ於テハ不履行ノ場合何等ノ制裁ナキカト云フニ然ラス
 蓋シ國家カ公債債務不履行ノ場合ニハ直チニ内外ノ財政上ノ信用ヲ失墜ス
 ヘシ又外國債權者ノ關係アルトキハ國際問題トナリ外國ノ干渉ヲ受クルニ
 至ルコトナキニ非ス即チ外國ヨリ財政上ノ監督ヲ受ケ更ニ一步進メハ外國
 ヨリ來リテ其國ノ財政機關ヲ直接管掌スルコトアリ
 尙ホ法律的ニ云ヘハ償還期限カ私債ニ於テハ期限アルコトヲ要件トスルモ

公債ノ
 意義及
 之ノ區
 別

第四編

公債論 第二章 公債ノ意義

公債ニ於テハ無期限ノモノ存ス

- (4) 公債ノ利子ハ概シテ私債ノ利子ニ比シテ廉シ普通利息ト云フハ元本ヲ失フコトニ對スル危険料含マル然ルニ國家ヲ相手トスル場合ニハ元本ヲ失フト云フ危険極メテ尠シ故ニ利息ニ差異ヲ生スルハ普通ナリ

(二) 之ヲ經濟財政上ヨリ云ヘハ

- (1) 公債ハ國家經濟的基礎ヲ備フ即チ公債ハ國民全體ノ債務ナリト云フヘシ蓋シ私經濟的臨時費支辨ノ爲ニ起ス公債ハ事業其モノカ償還力ヲ有スト雖モ普通ノ場合ニハ公債ノ償還ハ國家ノ收入ニ俟タサルヘカラス而シテ國家ノ收入ハ國民全體ノ負擔タル租稅ヲ中心トスレハナリ此ノ如キハ亦國家カ公權力ノ主體ニシテ其ノ權力ニヨリ私人ノ收入ヲ徵收スルコトヲ得ルニヨルニ外ナラス

- (2) 又國家生命ノ無窮ナルコトハ國家ノ信用ヲ厚クスル一因トナリ債權者ハ公債證書カ一片ノ紙屑ト化シ去ルコトヲ信セス或ハ世襲財產トシテ授受スルモノヲ生ス從テ公債ニアリテハ必スシモ償還ヲ急クヘキニアラス是レ私債カ原則トシテ償還ヲ急クト大ニ趣ヲ異ニスル所ナリ私債ニ無期ノモノナク偶々期限ノ定マラサルモノニアリテハ債權者ノ請求ニヨリテ確定期限ト

スルヲ得ルニ反シ公債ニ無期永遠ノモノヲ見ル所以亦茲ニ存ス
 第三 公債ハ如何ナル資本ヲ吸收スルヤ

(一) 外資公債ノ吸收スルハ國內資本ノミニ非サルハ明カナリ外債ヲ募リシ場合ニ於テ外國資本ヲ吸收スルコト言フ俟タス

外債ニハ形式的意義ト實質的意義トアリ普通ニ用フルハ前者ナリ外國ニ發行セラレ外國ノ資本ヲ吸收スルモノ是レナリ然ルニ國債ヲ外國資本ニテ買占メラレタルトキハ實質的ニハ外國債トナルナリ今次ノ戰爭中我國カ嘗テ外國ニテ發行シタル外債ノ内地ニ流入セルモノ少カラス之ト正反對ニ日本ニテ發行シタル公債ノ外國ニ流出スル場合アリ要之外資ニテ募リシ公債ハ國內ノ資本ヲ壓迫スルコトナシ

之ニ對シテ反對論者ハ外債ヲ募レハ通貨ノ膨脹物價ノ騰貴ヲ來シ輸入超過ヲ起シ正貨流出トナル加之一旦外債ノ方法ヲ誤レハ外國ノ干渉ヲ受クルニ至ルコトナキヲ保セス其結果ハ國運ヲ危カラシムルカ故ニ外債ハ不都合多シト反

之公債ハ勢メテ之ヲ外資ニヨラントシ外資ヲ輸入シテ一國流動資金ノ増加ヲ主張スル者アリ
 以上兩説ハ共ニ極端ニ失セリ願フニ國內資本ニ乏シキ場合ニ於テハ外資ニ頼

公債ハ如何ナルヤ
資本ヲ吸收スルハ如何ナルヤ

ル必スシモ不可ナラス反對論者ノ唱フルカ如ク常ニ惡結果ヲ惹起スルモノト
 斷スヘカラス外債ニヨリ資本ヲ得ルモ直チニ現金ノ形ニテ輸入スルモノニア
 ラス日本銀行ノ海外準備金トナリ兌換券發行ノ基礎トナルコトアレトモ必ス
 シモ現金ノ形ニヨリテ移入セサルコト寧ロ多シ元來債權國ハ輸入超過債務國
 ハ輸出超過トナルカ當然ナリ英國ノ如キハ外國ヨリ現金ノ收入スヘキモノ多
 キカ故ニ輸入超過ノ狀態繼續セリ然ルニ日本ハ戰前ニ債務國タルニ拘ハラ
 常ニ輸入超過ナリキ日本カ債務國ナル點ノミヨリ見レハ甚タ奇觀ノ如クナレ
 トモ日本ニハ輸出入關係ノ外ニ海外出稼人ノ送金アリ又日本ハ債務國ナレト
 常ニ外債外資ノ輸入盛ナリキ即チ日本ハ債務國ナレトモ外國ヨリ資金ヲ借入
 ルルカ故ニ一時的ニハ外國ハ金ヲ日本ニ拂フコトトナル即チ日本ニ其現金カ
 取寄セラルルカ故ニ相手方ハ物品ニヨリ相殺セントシ日本ハ支拂ニ充ツヘキ
 資金ヲ一時的ナリトモ有スルカ故ニ資本物ノ輸入ヲ爲スコト容易ナリ之カ爲
 メ一見例外ノ如キ現象ヲ呈シタルナリ
 輸入超過ノミ繼續スルコトハ貿易ノ外ニ他ニ原因ノ存在スルニ非サレハ到底
 永續スヘキモノニアラサルナリ外債ヲ發行セリトテ外資流入通貨膨脹等ヲ直
 チニ想像スルハ杞憂ニ過ク假令斯カル狀態起ルトスルモ國內ノ資金ヲ無理ニ

吸收スルヨリモ寧ロ利益アリ唯問題トナルハ内國債ナラハ萬一其償還ニ故障
 ヲ生スルモ外國ノ干渉ヲ誘致スルカ如キコトアラサレトモ外債ノ場合ニハ斯
 カル事ノ生シ得ヘキコトヲ考ヘサルヘカラス從テ外債ヲ起スニ付テハ一層熱
 慮攻究ヲ費ササルヘカラス

(二) 遊資 次ニ資本トシテ先ツ吸收スルハ遊資ナリ遊資ニハ現ニ存スルモノ
 ト新ニ發生スルモノトアリ公債發行ノ場合ニハ其發行ノ時ニ於テ遊資カ先ツ
 應シ來ルナリ遊資ハ日本ニ於テハ個人ノ手ニ存スルモノハ寧ロ寡少ナリ今日
 ニ於テハ多ク銀行ニ存ス經濟界沈滞不景氣ノトキハ公債ニ應スル者多シ是レ
 不景氣ノ爲メ有利ナル事業ニ向フヘキモノ少ク却テ安全ナル投資ヲ望ムニヨ
 ル但シ固ヨリ長期ノ公債ヲ喜ハサルヘシ
 又一方公債ノ發行ニヨリ遊資ヲ生セシム佛國邊ニテハ勞働者モ公債ニ應スル
 コト多シ即チ消費ヲ節約シ貯蓄シタル金ヲ以テ公債ニ應スルナリ適當ニ國民
 ノ貯蓄ヲ獎勵シ特ニ國債ノ民衆化ニ依リテ中以下ノ人民ノ貯金ヲ公債ニ化セ
 シムルハ蓋シ喜フヘキ現象ナリ
 然ラハ外資及遊資ノミニテハ公債ノ應募ハ盡クルヤト云フニ場合ニヨリテハ
 既ニ投下セラレタル資本ヲ吸收スルコトアリ公債ノ發行條件カ餘リニ有利ナ

ラサルトキハ何人モ既ニ投下シタル資本ヲ以テ之ニ應セントスル者ナキモ利
 廻ヨキ場合ニハ單ニ既存ノ遊資新生ノ遊資ノミカ之ニ向フニ非スシテ既ニ投
 下セラレタル資本モ之ニ轉セラルルコトトナルナリ此ノ如キニ至ラハ金融界
 ノ壓迫ト云ハサルヘカラス即チ公債ハ適當ノ限度ヲ超エタルモノナリ故ニ公
 債ノ應募カ資本ノ増殖國民ノ貯蓄ニ順應シテ既投ノ資本ヲ吸收スルナキ機勢
 メサルヘカラス要之戰時ニ於テハ公債カ投下資本迄吸收スルモ時ニ或ハ止ム
 ラ得ストセンモ平時ニ於テハ此ノ程度ニ進ムヲ避クヘシ

第三章 公債ノ理論(公債ノ利害)

第一 緒 説

(一) 公債ノ理論トハ公債ノ本質作用ヨリ立論シ或ハ起債ノ效果ヨリ觀察シテ
 公債ヲ起スヘキカ否カラ論スルモノナリ故ニ公債理論ハ起債ノ是非論トモ云
 フヘク或ハ公債利害論トモ云フヘシ

(二) 公債ヲ起スヘキカ否カノ問題ヲ解決セントセハ勢ヒ他ノ非常不足支辨方
 法(増稅非常準備金等)ニ比較シテ之ヲ觀察セサルヘカラス此比較論ハ既ニ經
 費支辨方法ニ關シテ述ヘタルヲ以テ本章ニハ主トシテ公債其モノノミヨリ觀

緒 説

テ論セントス

第二 悲觀説

悲觀説トハ公債ノ容易ニ起スヘカラサルコトヲ主張スル學說ナリ其立論ハ區々
 ナレトモ第十七八世紀ノ政治學者ハ政治論ヨリシテ公債ヲ非難シ正統經濟學派
 ハ經濟論財政論ヨリシテ公債ヲ排斥ス

(一) 政治學者ノ公債觀

(1) 要旨 政治上正義ノ觀念ヨリ論シ現代ハ現代ニ於テ責ヲ負フヘク之ヲ後
 世ニ讓ルヘカラス公債ハ現代ノ負擔ヲ後世ニ命スルモノニシテ道德上ノ權
 利侵害ナリト且政治家ヲシテ後世ニ手形ヲ發スル權利ヲ有セシムルトキハ
 政府ノ濫費ヲ誘致スルニ至ルトス(Hume)

(2) 批評 論者ハ現代ト後世トヲ區別シ負擔公平ヲ論スルモ現代ト後世トハ
 甚タ密接ノ關係ヲ有シ之ヲ離スヘカラス蓋シ國民經濟ハ連續的ニシテ現代
 ノ專業施設ハ後代ニ其效果ヲ殘シ現代ノ事變ハ同時ニ後代ノ變事ト見ルヘ
 キナリ果シテ然ラハ現代ノ事ニ對シテ其ノ負擔ヲ後世ニ分ツハ何ノ不可ア
 ルコトナク却テ現代將來ノ共同利益ノ爲ニ起シタル負擔ノ一部ヲ將來ニ移
 スハ公平ノ要求ナルヘシ

第四編

公債論 第三章 公債ノ理論(公債ノ利害)

公債ハ亦常ニ負擔ヲ後世ニ殘スモノニ非ス經濟的事業費ヲ辨スルタメノ起債ノ如キハ將來其得タル資本ニヨリテ元本ヲ償還スルヲ得ヘシ假リニ負擔ヲ後世ニ殘ストスルモ所謂後世ノ負擔ハ益々輕カラントスル傾向アリ後世ノ之ヲ感スルコトハ甚ダ薄シト云フヘシ蓋シ富力ハ漸次ニ進歩スルモノナレハ同一ノ公債額モ未來ニ於テハ國家全體ニ比シテ少量トナルヘク又利率ハ時ト共ニ低下スル傾向アルカ故ニ借換ヲ行ヒテ利子ヲ負擔ニ減スルニ至ルヘシ公債ノ最モ發達シタル永遠公債ノ如キニアリテハ償還ハ政府ノ權利ニシテ義務ニ非ス而シテ政府ハ歲入剩餘アリテ經濟社會力資本ヲ要スルトキニ償還ヲ行ハハ却テ國民經濟ニ益アリト云フヘシ而シテ公債カ政府ノ濫費ヲ誘致スルトノ論ニ至リテハ立憲國ニ於テハ議會ノ起債協賛權ニヨリテ容易ニ之ヲ排スルコトヲ得ヘシ

(二) 正統經濟學派並ニ其當時ノ公債觀 其生産方面ヨリ觀察シタルモノニ資本減却論アリ分配方面ヨリ見タルモノニ勞動者壓抑論貧富懸隔論アリ此等ノ論ハ更ニ公債亡國論ヲ生スルニ至レリ

(1) 資本減却論 此說ハアダムスミス氏ノ唱導ニカカリ國家ノ行動ヲ以テ不生産ナリトシ從テ公債ハ資本ヲ減却スルモノニシテ且起債ノ吸收スル資本

ハ既ニ生産業ニ投セラレタルモノナレハ之ニヨリテ國民經濟ヲ害スルモノトスルナリ

然レトモ國家ノ行動ヲ不生産的ナリトシテ排シ能ハサルコトハ既ニ經費論ニ於テ述ヘタリ且ツ無形財ノ觀念ヲ認ムルトキハ尙之ヲ不生産的ナリトナスヘカラス假リニ無形財ノ觀念ヲ採ラストスルモ國家ノ行動ノ中私經濟ノ業ヲ以テ不生産的ナリトナスヘカラス蓋シ企業ノ經營カ國家ノ手ニアルト個人ノ手ニアルニヨリテ其企業ノ生産的ノ不生産的ヲ區別スヘカラサレハナリ

公債ハ悉ク放下資本ヨリ吸收サルルモノトナスハ亦謬レリ蓋シ外債ヲ起ス場合ハ內國資本ニ何等ノ動搖ヲ與ヘス又內國債ニテモ遊資ヲ吸收スルコトアルヘク且ツ起債ノタメ貯蓄心ヲ刺戟シテ新ニ遊金ヲ作出スルコトモ或程度ニ認メサルヲ得サレハナリ

(2) 勞動者壓抑論 起債ハ勞賃ノ源タル資本ヲ奪フカ故ニ勞動者ヲ壓抑スルコトニ歸ストナス此說ハ貸銀基金說ヲ前提トスルモノナリ而シテ貸銀基金說カ誤謬ナリトセハ此說ハ根底ニ於テ破レタリト云フヘシ(經濟學要覽參照)假ニ貸銀基金說ヲ眞理トスルモ起債力此基金ヲ奪フモノト斷言スル能

ハス蓋シ外債ヲ起ストキハ此基金ヲ奪フモノニ非サルコトハ明ナルノミナ
 ラス内國債ニテモ既存ノ遊金及起債ニヨリテ促サレタル貯蓄ニ求ムルコト
 アレハナリ更ニ一步ヲ譲リ勞賃基金ヲ起債ニヨリテ奪フコトアリトスルモ
 其起債ノ使用サルル效果ノ如何ニヨリテハ勞働者ハ必スシモ悲觀說ヲナス
 ヘカラス蓋シ政府カ其ノ起債ニヨリテ得タル資本ヲ勞働者雇入レノ爲ニ使
 用スルコトアレハナリ如斯ハ私經濟的經費支辨ノタメノ起債ニ於テ殊ニ然
 リトス

(3) 貧富懸隔論 此說ハ公債ノ利子ノ支拂ニ著眼シ公債ハ一般多數ノ人ノ財
 產所得ヨリトリテ比較的少數ノ債權者ニ與ヘ社會ノ富ヲ一部ニ集中スル結
 果ヲ生シ資産者ト無資産者トノ懸隔ヲ大ナラシムトス此說ハ利子ノ財源ハ
 租稅ニアルコトヲ前提トスト雖モ起債ノ利子ハ其ノ起債ニヨリテ得タル資
 本ノ再生産物ヲ以テシテモ支拂フヘキコトヲ認メサルヘカラス又此說ハ公
 債ノ所有者ハ少數ノ富豪ナリトスルモノノ如キモ貧者モ亦之ニ與カルコト
 否ム能ハス佛國ノ勞働者カ精勤貯蓄ニヨリテ公債ヲ得ル傾向アルノ其好適
 例ナリ尙此說ハ支拂ハレタル利子ハ債權者ノ手ニヨリテ蓄積セラルトナセ
 トモ其利子ハ多ク債權者ニ於テ或ハ租稅トシ或ハ生産消費ノタメ用ヒラル

ルヲ認メサルヘカラス

(註) 公債ノ民衆化 公債ノ額面價格ヲ比較的少數ニシテ之ヲ一般中流以
 下ニモ所有セシメ得ヘカラシムルコトハ本論ノ反面トシテ之ヲ獎勵セザ
 ルヘカラス蓋シ之ニヨリテ公債ノ利子ノ下級ノ者ノ手ニ得シムルコトヲ
 得ルノミナラス國內ノ遊金ヲ集メ其ノ蓄積心ヲ刺戟スルコトヲ得ヘケレ
 ハナリ

(4) 公債亡國論 公債ハ國民ノ負擔ヲ増シ産業ノ衰頹ヲ來ダシテ終ニ國家ノ
 破産ヲ招クニ至ルトス此說ハ英國カ十八世紀ニ於テ國家多事ヲ極メ巨額ノ
 負債ヲ負ヒタルニヨリ其前途ヲ危フムタメニ生シタルモノナリ然レトモ此
 說ハ公債ト私債トヲ混同シ國家ノ生命ノ無窮ナルコト國富ノ進ンテ止マサ
 ルコトヲ忘却シタルモノナリ實ニ英國ノ富力ハ驚クヘク進歩シ公債ハ易々
 トシテ負擔セラレタルナリ

第三 必要的害惡說

此說ハ公債ヲ以テ尙害惡トナスコトニ於テ悲觀說ニ異ル所ナシト雖モ更ニ一步
 ヲ進メ公債ヲ起スノ必要アルコトヲ認ムルモノナリ從テ此派ノ學者ハ公債ノ害
 惡ヲ少カラシメンコトニ苦心セリ

必要的
害惡說

此說ハ公債ヲ悲觀スルコト前說ニ同シキカ故ニ其悲觀的觀察ニ對シテハ再述セ
ス而シテ其公債ノ必要ヲ認ムルコトハ稍現今ノ財政上ニ於ケル公債價值ヲ多ク
スルモノナリト雖モ其ノ論據トスル所ハ概ネ非常準備金ノ頼ムニ足ラサルニア
ルカ如シ而シテ此ノ觀察ニ對スル論評ハ既ニ非常準備金ニ就テ述ヘタル所ヲ參
照セラレタシ

第四 樂觀說

此說ハ起債ノ有益且正當ナルコトヲ論シ公債ト國民經濟及財政ハ益有的關係ヲ
保ツコトヲ說クモノナリ即チ曰ク起債行爲ハ個人經濟ニ於テ用途ノ見出サル現
在ノ遊資又ハ之カ動機トナリテ新ニ生シタル遊資ヲ共同經濟ニ移シ之ニヨリテ
個人經濟ニテハ満足シ得サル欲望ヲ滿タス所ノ國民的固定資本(無形資本)ヲ得
ルモノナリ若シ起債ナクハ遊資ハ失ハルルカ又ハ其利用少カルヘク新ニ資本ノ
發達ヲ見ルコトナカルヘシ是カ故ニ起債ハ國民經濟ニ有益ニシテ且正當ナルモ
ノナリ資本ニヨリテ國民的固定資本作ラルルカ故ニ資本ノ減却ニ非スシテ再生
産ナリト此點ヨリ再生産說トイフ(經費論參照)而シテ此ノ國民的固定資本ハ
臨時費ノ支拂ニヨリテ生スルカ故ニ起債ハ臨時費支拂ノ唯一ノ方法ナリトス
此說ヲ批評セントスルニハ其論據タル無形生産無形資本ノ觀念ヲ許スヘキカ國

樂觀說

家ヲ以テ無形資本ト爲スヘキカラ評セサルヘカラス(經費論參照)

無形資本無形生産ハ之ヲ認ムルトスルモ有形資本ヨリ有形資本ヲ作ルコトト無
形資本ヨリ無形資本ヲ作ルコトトハ區別セサルヘカラス即チ所謂經濟的經費ハ
無形資本ヲ作り非經濟的資本ハ所謂無形資本ヲ作ルモノナレハナリ此兩者ノ區
別ハ起債ニ對シテ異リタル解釋ヲナスモノナリ蓋シ國家ハ前者ニアリテハ其再
生産セラレタル資本ヲ以テ前ニ放下セル資本ニ酬ユルヲ得ヘシト雖モ後者ニア
リテハ其ノ資本ノ報酬ハ之ヲ他ノ財源(租稅)ニ求メサルヘカラサレハナリ從テ
前者ハ再生産ヲナセトモ後者ハ資本ヲ破壞セルモノナリ更ニ起債行爲ノ吸收ス
ル資本ニ就キ考フルニ此說ノ云フ如ク遊資ハ必スシモ常ニ存スルモノニ非ス殊
ニ戰後又ハ投機的時代ニハ遊資ハ極メテ少ナシト云フヘシ

第五 結論

以上ノ諸說ハ其眼中ニスル所ハ必スシモ起債ノアラユル場合ニ非ス其ノ一局部
ノ觀察ヲ以テ公債全體ヲ律セントスルノ譏アリト云フヘシ余ハ起債ノ是非ヲ正
當ニ判斷セントセハ其公債ノ起因竝ニ其ノ及ホス經濟的效果ヲ場合ニヨリ區別
シテ論セサルヘカラスト信ス

第四編 公債論

第三章 公債ノ理論(公債ノ利害)

公債ノ起因ニ就テ見レハ金庫不足ヲ補填スル爲ニスルアリ臨時不足(非常不足

結論

- ヲ) 填補スル爲ニスルアリ
- (1) 金庫不足カ一時的ニ止マリ近キ將來ニ於テ收入ノ支出ニ超ユル状態ヲ豫期シ得ヘキ場合ニ於テ其一時不足ヲ補填スルタメ流動公債ヲ起スハ是認スヘシ蓋シ其ノ性質上租稅其他ノ財源ニヨルコトヲ得ス又此ノ不足ハ比較的少額ニシテ短期ニ償還セラルルカ故ニ流動公債ヲ起スモ經濟社會ヲ害スルコト稀ナレハナリ
 - (2) 臨時不足填補ノ爲メ起債ヲナスハ之ヲ是認スヘシ然レトモ之ヲ以テ唯一ノ方法トナスヘカラス

第四章 公債ノ種類

公債ハ先ツ流動公債ト確定公債トニ依テ組立テラレサルヘカラス流動公債確定公債ヲ分ツ學說種々アリ基金說期限說起因說總額說是ナリ中ニ就キ總額說ヲ最モ適當ナリトス曰ク流動公債ハ其額一定セス外界事情ニヨリテ變動スルモノニシテ確定公債ハ其額一定シ其義務履行(利子支拂等)ニ關スル經費ハ豫算ニ經常費トシテ現ハレ確定ニ定マレルモノヲ云フト此說ハ又起債ノ原因ニ從テ起債ノ目的トモ關係ス蓋シ經濟的臨時費ヲ支辨スルニハ公債ニヨルヘク狹義ノ臨時費

公債ノ組織

ヲ辨濟スルニハ其カ外資遊資ヲ吸收スル限り公債ニヨルヘキコト公債租稅選擇問題ニ關シ述ヘタル如クナルニ斯クノ如クシテ起シタル公債ハ其額モ初メヨリ定マリ其利子ハ年々公債費トシテ豫算上經常費ヲ作ルモノナリ故ニ確定公債タルヘシ反之國庫ノ一時不足ヲ補フタメニ生セル公債ハ收入ノ入ルニ從ヒテ之ヲ辨濟シ得ヘク少クトモ一會計年度ノ終ニ於テハ之ヲ完結シ得ヘキナリ從テ其ノ額ハ國庫ニ入り來ル收入ト國庫ヨリ出ツル支出トノ關係如何ニヨリテ常ニ變動スルヲ免レス故ニ流動起債タルヘキナリ

第一節 流動公債

流動公債ハ財政公債ト行政公債トニヨリ成ル兩者ノ區別ハ公債ノ目的ニアリ即チ行政公債ハ政務上ノ目的ヲ達センカ爲ニ生シ其ノ財政上ノ目的ノ爲ニ利用セラルルハ偶然ノ結果ノミ反ニ之財政公債ハ財政其モノノ目的ノ爲ニ之ヲ起スナリ

第一 行政公債

- (一) 意義 行政公債トハ國家ノ官廳カ政務ヲ行フニ際シ隨伴シテ生スル公債ナリ即チ國家ノ官廳カ私人ヨリ財物又ハ金錢ヲ受取り之ニ對シテ國家カ反對給付ヲ爲スノ義務ヲ負フモノナリ

(二) 種類

- (1) 保證金債務 國家カ官吏又ハ他ノ關係人ヨリ保證金ヲ徵シタルトキハ一定ノ規定ニヨリ之ヲ償還スル義務ヲ負フモノナリ(官吏身元保證金新聞雜誌發行者ノ保證金政府ノ工事物品賣買ノ競爭者ノ保證金裁判上ノ保證金)
 - (2) 供託金債務 所謂供託ニヨリテ金庫カ保管シ還付スヘキモノナリ
 - (3) 保管金債務 法令ニヨリ政府カ金錢ノ保管ヲ受ケ權利者ノ請求ニヨリ拂戻スヘキ債務ナリ
 - (4) 預金債務 政府カ商業銀行ノ借方營業ヲナシ之ニヨリテ債務ヲ負フモノナリ之ヲ政務公債トナス所以ハ其目的カ財政上ノ理由ニアラス公益即チ國民貯蓄獎勵等ニ存スルカ故ナリ(郵便貯金預金部預金はナリ)
- (三) 行政公債ノ爆發的要素 政務公債ハ行政司法ノ目的ヲ達スルカ爲ニ生スルモノナルカ之ヲ財政官廳ノ保管ニ移シ不特定物トシテ國家ノ處分ニ任スルニ及ンテ亦財政ト密接ノ關係ヲ生ス然ルニ返還ノ必要ハ財政ノ便宜ト伴ハサルコトアリ即チ債權者ノ請求ニヨリ返還セサルヘカラサルヲ常トスルヲ以テ其何時請求セラルルカモ測ラレサレハ財政上ノ危險存スルモノト云フヘシ之ヲ爆發的要素トイフ爆發的要素ハ政務公債ノ種類ニヨリテ大ニ異ル

公行
債政

- (1) 保證金債務ニアリテハ支拂ノ時期ハ比較的豫想シ得ルノミナラス頻繁ニ起ルモノニ非サレハ國家ノ危險少シ
- (2) 保管金債務及供託金債務ハ權利者ノ意見ニ從テ支拂ハサルヘカラサルカ故ニ爆發的要素多シ
- (3) 預金ニ至リテハ金ヲ預金者ノ意見ニヨリテ引出スモノナルカ故ニ爆發的要素最モ能ク働ク從テ一方銀行營業ト同シク相當ノ支拂準備ヲ置クト共ニ他方其危險ヲ豫防セサルヘカラス其豫防方法ニヨリ預金額ノ制限及確定公債組換ナリ我郵便貯金ハ一人ノ預金總額ヲ二千圓以下トシ公金カ一定ノ額ニ達シタルモノハ之ヲ確定公債ニ組換フルコトトス

第二 財政公債

財政上ノ流動公債ハ國庫ノ一時不足ヲ補フ爲ニ起スモノナルヲ以テ近キ將來ニ於テ國庫ノ剩餘ニヨリテ支拂ハルヘキモノナリ從テ期限ハ極メテ短キナ特色トシ長キハ其性質ニ反ス

(一) 銀行債務 國庫カ銀行ニ對シテ負フ債務ナリ

- (1) 國庫金管理上ノ銀行債務 國庫金管理ノ銀行カ國庫ノ收入ヲ豫期シ既收額ニ超ユル支拂命令書ヲ銀行券ニヨリテ支拂フニ依リテ生スル債務ナリ即

チ當座貸越ニヨル債務トモ云フヘシ

- (2) 一時借上 國庫カ銀行ト契約シ短期ノ資金ヲ借ルモノトス我國ニテハ定期借ト當座借トアリ然レトモ當座借ヲ常例トナスモノノ如シ
- 銀行債務ハ國民經濟上ニ影響ヲ及ホスコト少ナカラス蓋シ之カ爲ニ銀行ノ商人ニ對スル貸付割引資本ヲ減少シ又割引率ヲ引上ケシムルニ至レハナリ

(二) 大藏省證券

- (1) 大藏省證券ハ大藏省カ出納一時使用ノ爲メニ發行スル證券ニシテ其所持人ニ短期ニ於テ證券ノ呈示ニヨリ國庫ヨリ一定ノ金額ヲ受取ル權利ヲ與フルモノナリ

大藏省證券ハ確定公債證券ト其性質類似スルカ如キモ其ノ總額カ財政上ノ需要ニヨリテ變シテ一定セサルト其當時ノ歲入ヲ以テ支辨セラルルトハ流動公債ノ特色ヲ反證シテ餘リアルヘシ

大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買セラルルカ故ニ兌換紙幣ニ似タレトモ兌換紙幣ハ代用貨幣ニシテ大藏省證券ハ然ラス

- (2) 大藏省證券ハ金庫不足ヲ補填スル爲ニ發行スルモノナルカ故ニ短期ニ償還セラルヘキモノトス我國ハ一年以内トス然ルニ會計年度ノ終リニ國有收

公財
債政

入ノ入り來ラサルコトアルカ故ニ國ニヨリテハ年度外ニ亘ル大藏省證券ノ發行ヲ許スモノアリ我國ニテモ煙草專賣局並製鐵所ノ運轉資本補填ノ爲ニスル大藏省證券ハ翌年度ニ亘リ得ルモノトス

- (3) 大藏省證券ニハ利子ヲ附セサルヘカラス利子ヲ附スル方法ニニアリ普通貸付ノ場合ニ於ケルト同シク確定利子ヲ附スルハ其一ニシテ割引ノ方法ニヨリ利子ヲ先ツ差引クモノハ其二ナリ(割引發行)我國ノ實際ニヨルニ割引發行ヲ常例トス

- (4) 大藏省證券ハ非常不足ヲ填補スル爲ニ發行スヘキモノニ非ス蓋シ其短期ノ期限滿了スルモ必スシモ完済スルヲ得サルカ故ニ借換ヘサルヘカラス然ルニ其時ニシテ偶々經濟上ノ恐慌其他ノ不景氣起ルトキハ容易ニ之ヲ行フコトヲ得ス爲ニ財政難ヲ起スノ虞アレハナリ是カ故ニ此ノ如クシテ起セル流動公債ハ速ニ確定公債ニ組換ヘサルヘカラス

(三) 兌換紙幣ノ發行

- (1) 兌換紙幣トハ所持人ノ要求次第其表示スル金額ヲ正貨ニテ支拂フコトヲ約スル國家ノ證券ニシテ政府カ支出アル場合ニ發行スルモノナリ通例之ニ強制通用力ヲ附セサレハ嚴正ナル意義ニ於ケル紙幣ト云フ能ハス此ノ點ニ

於テ兌換紙幣ハ兌換銀行券ニ似タリ而シテ兌換ノ準備金ハ發行金額ニ及ハサルヲ常トスルカ故ニ其及ハサル範圍ニ於テ政府ハ無利子ニ借債スルト異ナラス故ニ國家又經費ヲ支辨スルタメニ之ヲ發行スルトキハ一方ニ社會ニ通貨ヲ供給スルト同時ニ他方ニ兌換義務ノ存スル公債ヲ發行スルモノト云フヘク其額ハ外界ノ事情ニヨリテ變シ且發行ノ意思ハ短期ニ償還スルニ在ルヲ以テ流動公債ノ性質ヲ有スルモノト云フヘシ

(2) 兌換紙幣ハ要求拂證券ニ過キサルヲ以テ準備金ノ額及通貨需要額ニヨリテ自ラ一定ノ限界ヨリ之ヲ超エテ發行スルトキハ正貨ノ海外流出ヲ來シ兌換ハ不能トナリ終ニ之ニ強制通用力ヲ與ヘテ不換紙幣トナスノ已ムナキニ至ラン斯クテハ公債ノ廢棄ト異ナラス

第二節 確定公債

第一 有期公債

有期公債トハ一定期限ニ於テ國家カ元金償還ノ義務ヲ履行スルコトヲ約スル債務ナリ而シテ其元金償還ノ期限ニハ最終ノ時期定マレハ可ナリ

(一) 期限ヲ標準トシテノ分類

- (1) 有期一時支拂公債 償還年限ヲ定メ其期限ニ至リ一時ニ之ヲ支拂フヘキモノナリ財政上最モ不便ナリトス蓋シ其期限中ハ財政餘裕アルモ償還シ得ス又利子低落スルモ借換シ得ス而シテ滿期限ニハ財政困難ナルモ償還ヲトササルヘカラサレハナリ從テ現今ノ公債政策ニ採用サレス
- (2) 有期定期支拂公債 一定期限中々々定額ヲ償還シ滿期ニ及ンテ全債務ヲ償還シ終ルモノナリ此ノ公債ハ年々ノ償還額大ナラス且支拂額年々大差ナキヲ以テ年々ノ豫算ニ算入スルコト容易ニシテ財政ノ餘裕アルトキハ不便ナカルヘキモ財政上經濟上ノ波瀾アリテ收入減經費増ヲ來ストキハ支拂困難トナリ勢ヒ高利ノ新公債ヲ起スカ増稅セサルヘカラサルニ至ル幸ニ此ノ危險ナシトスルモ利率ノ低落セル場合ニ付借換ヲナスコト能ハス從テ財政上不便ナル公債ト云フヘシ
- (3) 有期隨時支拂公債 一定ノ償還年限ヲ定メ其期限內ニ於テ政府カ其財政ノ都合ニヨリ隨時ニ支拂フ公債ナリ此公債ハ前二者ニ比シ財政上ノ利便多シ蓋シ第一ニ償還ニ屈伸アリテ毎年必スシモ支拂ヲ要セス政府ノ便宜ニ從テ償還ヲ決シ得ヘク第二ニ市場ノ利子低落セハ直ニ借換ヲ行ヒ得ヘケレハナリ然レトモ滿期ニハ財政困難ナルヤ否ヤ問ハス必ス償還セサルヘカラ

公有
債期

サルノミナラス一時ニ非常ノ資金ヲ民間ニ出シテ金融ヲ素スノ虞アリ然レトモ是レ畢竟公債ノ有限ナルカ故ニ生スル通弊ナリ

(二) 元利支拂方法ヲ標準トシテノ分類

(1) 年金公債 國家カ債權者ニ對シテ其元利ヲ一定ノ期限又ハ債權者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ支拂フコトヲ約スルモノナリ故ニ年金ハ國家カ債權者ニ

元利支拂ノ方法ニ關シテ約スルモノト云フヘシ三個ノ種類アリ

(イ) 有期年金 國家カ一定期間債權者ニ對シテ一定ノ金額ヲ支拂ハンコトヲ約スルモノナリ其年金額大ニアラス且期間長キニ失セサレハ國家ハ債務ノ履行困難ナラス又借換ノ機モアリト云フヘク又債權者モ一定期間或ル一定ノ出資ニ對シテ最モ多額ノ收入ヲ得之ニヨリテ特殊ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ(例之學事ニ關スル年金)

(ロ) 終身年金 國家カ債權者ノ死亡ニ至ルマテ一定額ヲ支拂フコトヲ約スルモノナリ實際上債權者ノ生命ノ長短ニヨリ國家ノ損益ニ差ヲ生スト雖モ國家ハ比較的少額ノ償還ヲ徐々ニ爲スコトニ歸スルヲ以テ財政上困難少ク又債權者ヲ誘フニハ有效ノ方法タルヲ失ハス

(ハ) トンチン年金(Tontinenanleihe) 終身年金ニ投機的要素ヲ加ヘタル

モノナリ即チ例之政府カ同年齡ノ者百人ト年金契約ヲ結ヒ其一人死セハ其死亡者ノ年金ハ生存者九十九人ニ分配シ二人死セハ之ヲ九十八人ニ分配シ最終ノ長壽者ハ自己ノ年金ノ外ニ九十九人分ノ年金ヲ得ル仕組ナリ年金大ナレハ手數ヲ要シ不便モ少ナカラス

(2) 富籤公債

一定計畫ニヨリ抽籤ヲ以テ資本ノ償還ト共ニ籤ニ當レルモノニ一定ノ割増金ヲ與フルコトヲ約スルモノナリ富籤公債ニハ利子ヲ附セサルコトアレトモ普通ハ利率ヲ低クシ其差ヲ以テ一ハ割増金ノ資源トシ一ハ國家ノ所得トナシ以テ實際上低利ノ公債ヲ起サントスルナリ此ノ公債ハ低利ナルノ利アレトモ國家ハ自己ノ都合ニヨリ償還スルノ自由ナク且借換ニヨリテ利子ヲ低減スルコト能ハス加之取扱上手數ヲ要スルコト大ナリ

(3) 普通公債

元利ノ支拂ハ別々ニ之ヲ爲スモノニシテ今日一般ノ文明國ニテ探ル所ナリ即チ國家ハ規則正シク利子ヲ支拂ヒ元本ノ支拂ハ財政上ノ都合ニヨリテ之ヲ爲スコトアリ爲ササルコトアリ但シ元本支拂ニ此ノ方法ヲ執リ得ルハ有期隨時支拂公債ニ限ルコト前述ノ如シ而シテ此公債尙缺點アリトセハ勢ヒ永遠公債ニ進マサルヘカラス

第二 無期公債

第四編 公債論 第四章 公債ノ種類

無期公債

- (一) 無期公債ハ國家カ毎年利子支拂義務ヲ負フニ止マリ元金支拂ハ無期限ニシテ國家ノ隨意トナスモノナリ故ニ債權者ハ利子支拂請求權ヲ有スレトモ元金支拂ノ請求權ナシ反之國家ハ元金支拂ノ權利ヲ有シ義務ヲ負ハス
- (二) 無期公債ノ採ルヘク以テ公債ノ方式ノ中心トナスヘキ所以ヲ見ルニ左ノ如シ
- (1) 有期公債ハ戰爭其他ノ爲メ財政上ノ困難ニ達著スルトキハ償還スル能ハス爲ニ高利低價ノ新債ヲ起スノ止ムナキニ至ルヘシト雖モ永遠公債ハ無期ニシテ一定期ニ償還セサルヘカラサルコトナク從テ此ノ弊ナシ
 - (2) 公債ノ償還ヲ無期ニ延ハスモ財政上ノ不利ヲ招クコトナク却テ國庫ノ利得トナル蓋シ貨幣單位ノ下落スルカ爲メ後年ニ至ルニ從テ同額ノ債務モ負擔ヲ減スルニ至ルノミナラス國富ノ増殖スルカ爲メ公債額ノ減少ト同一ノ結果ヲ生スレハナリ
 - (3) 債權者モ不利トナラス却テ公債ニ放資スルモノハ其ノ償還ヲ喜ハサルヘシ併シ公債ハ現金ヨリモ安全ニシテ而モ相當ノ利殖ヲ得ヘケレトモ償還ヲ受クルトキハ更ニ安全ナル他ノ放資ヲ求メサルヘカラサルノ煩アリ又若シ事業ノ企圖ニ資金ヲ要スルトキハ公債ヲ銀行ニ擔保トシテ金錢ノ融通ヲ得

ヘク之ヲ賣リテ金錢ニ代フルヲ得ヘク敢テ其ノ償還ヲ待ツヲ要セサレハナ

第五章 起債

第一節 總論

起債ハ國家公共團體カ私人ヨリ資金ヲ受取り之ニ對シテ公債務ヲ負フ雙方行爲ナルヲ常トス稀ニハ公債證書ノ授與ノ如キ一方行爲ナキニ非ス而シテ雙方行爲ハ國家カ私人ヲ強制シテ之ヲ爲スコトナキニ非サレトモ斯ノ如キハ非常ノ場合ニシテ公債ノ常道トシテハ個人カ自由意思ニヨリテ資金ヲ國家ニ移シ國家カ之ニヨリテ債務ヲ負フニ存ス前者ハ強制公債ニシテ後者ハ自由公債ナリ尙公債ヲ強制セサルモ愛國ノ情ニ訴ヘテ之ニ應セサルヲ得サラシムルニ至ラシムルモノアリ之ヲ愛國公債トス

(一) 強制公債 強制公債ハ財産稅ト同シク各個人ノ財産ノ評價及ヒ臺帳ノ作成ヲ以テ前提トス其課稅ト異ル所ハ國家カ利息ハ勿論元金モ何時カ支拂フ債務ヲ負フコトニ存ス

起債ノ意

強制公債ハ經濟上財政上ニ害アルコト少ナカラス蓋シ一方ニ於テ私人カ他ノ事ニ用ヒ又ハ用ヒントスル資本ヲ強制的ニ國家ノ用ニ供セシムルノミナラス流動資本殊ニ現金ヲ有セサル者ニ大打撃ヲ與ヘ他方ニ於テ國家ノ信認ヲ根本的ニ破壊スレハナリ殊ニ強制公債ハ國家危急ノ場合ニノミ之ニ依ルヘク若シ之ヲ用ヒタルトキハ他日速ニ任意公債ニヨリテ得タル資金又ハ租稅ノ收入ヲ以テ之ヲ消滅セシムルニ努メサルヘカラス

(一) 愛國公債 愛國公債ハ國民ノ愛國心ニ訴ヘテ政府ノ有利ナル條件ニテ起債シ又ハ巨額ノ募集ヲ得ントスルモノナリ然レトモ愛國公債ハ尙私人ノ自由意思ニヨルモノナルコト自由公債ト異ナラサルヲ以テ國家カ千載ノ危機ニ遭遇シテ國民ノ感情極度ニ高マリタル時ノ外之ヲ利用スルモ成功期シ難シ

(二) 自由公債 普通ノ公債ノ形式ハ專ラ之ニヨル國家カ自由公債ノ形式ヲ採リ私人ノ應スルト否トヲ其ノ自由ニ任シ尙所期ノ目的ヲ達スル所以ハ一方ニ國家ノ公信認厚ク他方ニ金融市場ノ發達セルニヨル

第二節 起債ノ條件

第一 利率

利率

國家カ金融市場ニ出テテ資金ヲ得ントセハ其市場ニ適應スル利率ヲ定メサルヘカラス蓋シ債權者ハ公債ヲ以テ一ノ放資ト看做スカ故ニ利率リノ高キモノニ應セサルヘケレハナリサレハ公債ノ利率ハ市場一般ノ利率ヲ標準トセサルヘカラス然レトモ此利率ハ國家ノ信認程度ニヨリテ亦大ニ異ル即チ國家ノ信認厚ケレハ此率ヲ下ルモ應スルモノアルヘク薄キトキハ此率ヲ上ルモ應スルモノ少ナカ

第二 發行價格

發行價格トハ公債證書ヲ個人ニ交付スル代リニ個人ヨリ受取ル金額ナリ換言セハ公債證券ノ代價ナリ其定メ方ニニアリ

(一) 平價發行 發行價格ヲ公債證券額面ト同一ニ定メタルモノナリ例ヘハ市場ノ利率五分ニシテ公債證券ノ利率モ亦五分トシ百圓ノ額面ニ對シテ百圓ヲ受取ルモノヲ云フ平價發行ニテハ利率ハ一般金融市場ノ利率ト適應セサルヘカラサルカ故ニ之ヨリ低キヲ得サルノミナラス國家ノ信認薄キトキハ之ヨリ高キヲ要スルコトアルヘシ然ルニ利率高ケレハ支拂ノ爲ニ大ナル財源ヲ要ス又平價ニテ發行スルトキハ募集甚ダ困難ニシテ財政上不便ナルコト多シ然レトモ平價發行ニテハ手取金多キタメ公債發行高ハ比較的少クシテ足ルカ故

發行價格

償還ニ傾ナリ且ツ利子遞減ノ傾向アルヲ以テ容易ニ借換ヲナスコトヲ得
 (一) 呼價發行 發行價格ヲ公債證券額面以下ニ定ムルモノナリ例ヘハ百圓ノ證券額面ニ對シテ九十五圓ヲ受取ルカ如シ此方法ニヨレハ一般金利ヨリハ低キ利率ニヨリテ起債スルコトヲ得斯ク呼價發行ニ依レハ名義上低利ニシテ實際上高利トナルカ故ニ一方ニ於テハ外見上國家ノ信認大ナルコトヲ示シ他方ニテハ債權者ハ事實上高利ヲ樂ミ得テ借換ノ虞ナキカ故ニ大ニ安シテ起債ニ應スヘシ

然レトモ呼價發行ニテハ價格變動ノ區域廣ク投機ノ用ニモ供セラレルカ故ニ景氣ノ好悪ニヨリ公債證券ノ價ヲ必スシモ高ムルコト能ハス且手取金少クシテ額面多キカ故ニ償還ノ爲メ巨大ノ財源ヲ要シ額面上ノ利子低キカ故ニ容易ニ借換ヲ爲スコト雖ク長期間多額ノ利子ヲ支拂ハサルヘカラサルニ至ル要之政策トシテハ呼價發行ハ害多ク利少キカ故ニ採用スヘキモノニ非ス之ヲ採用スルハ偶々國家ノ信認小ナルヲ表白スルモノナリ

第三 券面種類

券面ノ種類ハ國民ノ富ノ程度取引所ノ慣習等ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス
 (一) 小券面公債 國民ノ富ノ程度進メル國ニテハ券面ハ概シテ大トナシ得ヘ

券種類面

シト雖モ斯カル國ニ於テモ公債ニ依リテ細民ノ資金迄ヲ吸收セントセハ勢ヒ券面ヲ比較的小ナラシメサルヘカラス細民ノ資金ヲ吸收スルトキハ國家ノ集メ得ヘキ資金ハ多クナルノミナラス公債ヲ社會下層級ニ及ホス所謂公債ノ民衆化ヲ現實ニシ以テ細民ヲシテ國家ト利害休戚ヲ共ニスルノ思想ヲ養ハシメ社會政策ノ一端ヲ行フコトヲ得ルカ故ニ券面ノ小ナルコトハ公債政策上重大ナル意義ヲ有ス是レ國民ノ富メル國ニテモ小券面ノ公債ヲ發行スル所以ナリ
 (二) 大券面ノ公債 小券面ノ公債ノ意義ハ上述ノ如シト雖モ資産階級ニ對シテハ必スシモ適切ナラス殊ニ取引所ニテ賣買スルモノニアリテ小券面ハ却テ煩ニ堪ヘス且小券面ノ公債ヲ徒ニ多クシテ下級者ニ公債ヲ有セシムルトキハ直ニ賣ラレテ公債價格ヲ下ケシムルノ虞ナキニ非ス故ニ大券面ノ公債ヲモ發行セサルヘカラス

第四 公債ノ利子支拂期

利拂ノ回數及時期ハ國庫及金融ノ關係上影響スル所少ナカラス從テ公債政策ハ之ニ關シテ十分ニ考量セサルヘカラス而シテ近來ハ二期又ハ四期ニ支拂フ
 (一) 利拂ノ回數少ケレハ國庫ノ手數ハ之ヲ省クコトヲ得ヘシト雖モ多數ノ公債アルトキハ其利子モ多額ニシテ國庫力之ニ應スルノ收入ナキコトアルヘク

利拂期

又經濟社會モ一時ニ通貨ノ増加ニ苦シムコトアルヘシ
 (二) 支拂ノ時期ヲ納稅期ノ前ト定メハ金融市場ヲ緩和スルヲ得ンモ國庫ハ爲
 ニ流動公債ヲ起スノ必要ニ迫ラン若シ納稅期ノ後ニ定メハ之ニ反スルノ現象
 ナ來スヘシ利子支拂期ノ選擇ハ又納稅ノ外ニ市場ノ決算期其金融ノ狀態ヲ酌
 量セサルヘカラス

第三節 起債ノ方法

第一款 直接發行

直接發行トハ國家カ債權者ト直接ニ契約ヲ締結シ其得タル資金ニ對シ公債證書
 ヲ交付スルモノヲ云フ次ノ二方法アリ

第一 募債

(一) 意義 募債トハ國家カ公債總額發行價格利率等ノ起債條件ニ公告シ其條
 件ニ從テ公衆カ之ニ應スルノ申出ヲ爲シ其額カ募集額ニ超ユルトキハ一定ノ
 方法ニヨリテ債權者ヲ確定シ之ニ拂込ヲ命シ公債證券ヲ交付スルヲ云フ故ニ
 募集ハ國民ノ中ヨリ募ルモノニシテ仲介者ヲ要セス是レ國民的公債又ハ公募

公債ノ名アル所以ナリ

(二) 募債ノ手續 募債ハ第一ニ募債公告ヲ以テ始メ第二ニ國民ノ應募申込簿
 三ニ募入確定第四ニ拂込等ノ諸階級ヲ經テ第五ニ公債證券ノ交付ヲ以テ終ル
 右ノ中詳述ヲ要スルモノハ募入確定ナリ

(三) 募入確定 募入確定ニ關シテ論スヘキハ應募超過ノ場合ニ於ケル債權者
 ノ確定方法ナリ其方法ニ二アリ

- (1) 比例的割戻 應募高ノ募債高ニ超過スル部分ヲ各人ノ應募高ニ比例シテ
 割戻スモノナリ理論上正當ノ處置ナリト雖モ小額ノ應募者ヲ全ク除外スル
 結果ヲ生スルコトアリテ社會上喜フヘキコトニ非ス
- (2) 減少 應募者ノ或者ニ優先權ヲ與ヘ之ニ對シテハ減少割戻ヲ行ハサル方
 法ナリ

- (イ) 高價無減少法 應募價額ノ高キモノヨリ順次ニ取リテ募入ヲ確定シ
 需要額ヲ得ルニ至リテ止メ應募價格同シキモノハ申込ノ高ニ比例シテ減
 少スルノ方法ナリ此場合ニハ最低發行價格ハ政府ノ公定スル所ナリト雖
 モ其價格ヨリ高價ニ發行シ得ルヲ以テ又名付ケテ高價發行法ト云フ
- (ロ) 小口無減少法 少額ノ應募者ニ優先權ヲ與ヘ應募總額カ募集額ニ超

募債

第四編 公債論 第五章 起債

過スルモ減少セサル方法ナリ故ニ小口應募ノ優先法ト謂フヘシ
 小口無減少法ハ社會政策ノ要求ニ出ツ即チ細民ニ公債ヲ所有セシムルコ
 トハ一方ニ於テ其利害ト國家ノ利害トヲ調和スルコトヲ得他方ニ於テハ
 此等ノ人民ニ勤儉貯蓄ヲ獎勵シ兼テ金融ノ器具ヲ供セントスルモノナ
 リ然レトモ財政上ヨリ見レハ小口無減少法ハ小口者ノ拂込回滑ナラス又
 國家カ元利ノ支拂ヲナスニ手數ヲ増加スルノ不便ナキニ非ス蓋シ細民カ
 自己ノ資産程度ヲ顧ミスシテ漫リニ多クノ申込ヲ爲スコトアルヲ以テナ
 リ

高價募集申出ト小口募集申出ノ何レニ先ツ優先權ヲ與フルカハ財政政策
 ト社會政策ノ何レヲ先キニスヘキヤニヨリテ決スヘシ諸國ノ慣例ハ高價
 應募者ニ優先權ヲ與ヘ居レリ

(ハ) 寄託者無減少法 公債證券ヲ一定期間賣却セサルコトヲ聲明シ之ヲ
 發行所ニ寄託スル者ニ適用スル方法ナリ是レ公債價格ノ下落ヲ防カンカ
 爲メノ政策ニ出ツ

第二 賣債

賣債トハ國家カ公債ノ如ク煩多ノ手續ヲナサスシテ私人ヨリ資金ヲ得之ニ對シ

買債

テ公債證券ヲ交付スルヲ云フ分チテ二種トス

(一) 佛國式賣債 政府カ賣債局ノ如キモノヲ設ケテ何人ニテモ公債證券ヲ需
 要スル者ニ何レノ時タルヲ問ハス賣付クルヲ云フ佛國政府ノ試ミシ所ナルカ
 故ニ此ノ名アリ

此方法ニヨレハ國家ハ寧ロ受動者ナルカ故ニ其資金ヲ要スルトキニ之ニ應ス
 ルコト能ハサルノミナラス巨額ノ資金ヲ國庫ニ供スルコト不可能ナリ然レト
 モ佛國公債カ民衆ノ中ニ浸潤シテ公債ノ民衆化ヲ來セシハ一ハ此方法ノ效果
 トイフヘシ

(二) 取引所賣債 國家カ公債證券ヲ取引所ニ賣出スヲ云フ國家ノ賣出方法宜
 シキヲ得ハ金融ヲ調和スルヲ得又金融緩漫ノ地ニ於ケル取引所ニ於テハ比較
 的多額ノ手取金ヲ得ヘシ然レトモ多額ノ賣出ハ直ニ公債證券ノ價ヲ下落セシ
 メ兼テ金融市場ヲ攪亂スル虞ナシトセス故ニ巨額ノ資本ヲ一時ニ得ントス
 ルトキハ之ニヨル能ハス

第二款 間接發行

間接發行トハ媒介者ヲ經由シテ公債證券ヲ發行スルヲ云フ即チ國家カ公債證券

ヲ媒介者ニ交付シ媒介者ハ一方ニ於テ之ヲ需要若ニ配分シ他方ニ於テ資金ヲ國家ニ移スモノナリ故ニ又媒介者ニヨル實債ト云フモ不可ナシ而シテ媒介者ハ普通金融市場ニ於ケル重要ナル機關則チ銀行又ハ銀行團(シンジケート)ナリ
 間接發行ハ媒介者ノ地位ニヨリ分チテ二トス即チ媒介者カ自己ノ計算ニ於テ之ヲ爲スヲ請負發行ト云ヒ國家ノ計算ニ於テ之ヲ爲スヲ委任發行ト云フ此等ノ方法ニハ長所ト共ニ短所アレトモ外債ヲ起ス場合ニハ直接發行ニヨルヲ得サレハ勢ヒ之ニ依ルヘシ

第一 委任發行

委任發行トハ國家カ大銀行又ハ其銀行團ニ委任シ之ヲシテ資金ヲ搜索シテ起債ニ應スル者ヲ集メ拂込ヲ受ケ終ニ證券ヲ交付セシムルヲ云フ委任發行ニヨル公債ノ賣買ハ國家ノ計算ニ於テ爲スカ故ニ國家ハ依然企業主ニシテ銀行等ノ媒介者ハ單ニ手数料ヲ得ルニ止マリ所期ノ額ヲ得サルヘカラサルノ責任ヲ有セス是レ此發行方法ノ缺點ナリ然レトモ委任發行ハ銀行カ金融界ニ通スルノ便利ト資金ヲ吸收スルノ手腕トヲ以テ到ル處ニ資金ヲ搜索シ煩多ノ手續ヲモ要セサルカ故ニ地方的又ハ國民的資金ニ止マラス進ンテ世界的資金ヲモ集ムルヲ得ヘシ此點ニ於テ委任發行ハ長所ヲ有ス

發行任

第二 請負發行

國家カ銀行團ト約シ之ヲシテ其責任ト危險トニ於テ公債證券ノ販賣ヲナサシメ之ニ對シテ相當ノ報酬ヲ與フル方法ナリ此方法ニ於テハ銀行ハ公債證券ノ總額ヲ引受ケ一切ノ責任ヲ負フモノナルカ故ニ其公債證券ヲ公衆ニ賣リ若シ豫期ノ如ク成功セサルトキ國家ニ對シテハ契約ノ金額ヲ拂ハサルヘカラス故ニ此方法ニ於テハ銀行ハ專ラ企業者トシテ大ナル危險ヲ負擔シ國家ハ公債證券ヲ銀行ニ卸賣スルノミ

此方法ハ金融界ニ通スル銀行ノ智識ヲ利用シ其資金ノアル所ニ就テ巧ニ之ヲ入リ來ルコトヲ得ルノミナラス國家ハ豫期ノ金額ヲ得ルコトヲ誤ラス而シテ直ニ所要ノ金額ヲ手ニ入ルルコトヲ得ヘシ然レトモ國家ハ公債證券ヲ低價ニ卸賣セサルヘカラサルノ不利アリ蓋シ銀行等ハ其勞務ニ對スル手数料ノミナラス其企業ニ對スル利得ヲ得サルヘカラサレハナリ尙請負發行ニ於テハ公債ノ引受販賣ハ銀行ノ企業トナルカ故ニ銀行ハ買價ト賣價ノ差額ヲ大ナラシメンカ爲ニ公債ノ發行前ニハ市場ニ從來ノ公債證券ヲ賣出シテ其價ヲ下落セシメ以テ引受ノ價ヲ低クシ之ヲ再賣スルニ當リテハ市場ノ公債證券ヲ買テ其價ヲ騰貴セシメ以テ高價ニ賣ラント努ムルヲ例トス而モ國家ハ之ニ處シテ十分ニ有利ノ地位ヲ占ム

發行責

ルコト難シ

(註) オブション(Open)ノ方式 請負發行ハ銀行ニ大ナル危険ヲ負擔セシ、ルモノナレハ之ヲ避クル爲ニ生シタル形式ニシテ即チ銀行カ國家ノ需要額ノ一部分ヲ引受ケ其殘額ハ同シ又ハ他條件ノ下ニ引受ヲ留保スルナリ

第六章 公債ノ管理

第一節 公債ノ借換

第一 借換ノ意義

公債ノ借換トハ公債ノ體様ヲ變更スルコトヲ云フ公債ノ態様ハ起債ノ條件ニ依リテ定マルカ故ニ借換ハ元金額利率償還年限据置期限等ノ變更ニ歸ス然レトモ今日普通ニ借換ト云ヘハ狹義ニ解シ利率ノ變更殊ニ遞減ヲ意味スルヲ常トス所謂低利借換是ナリ

第二 借換ノ前提

(一) 法律上ノ前提 即チ政府カ借換權ヲ有スルヲ要ス借換ハ債權者ヲシテ元金ノ償還ト新公債ノ所有トノ選擇ヲ自由ニ許スアリ又ハ之ヲ許サスシテ舊公債ノ代リニ新公債ヲ取得モシムルモノアリ前者ハ任意借換ニシテ後者ハ強制

借換ノ
意義

借換ナリ

(1) 強制借換 強制借換ハ政府カ權力ヲ以テ臨ムモノニシテ之ヲ借換權トセ

ハ國家ハ總テノ公債ニ借換權ヲ有スヘシ然レトモ是ハ事實上ノ國家ノ權力ニシテ法律上ノ借換權ニ非ス從テ強制借換ハ茲ニ問題トナラス

(2) 任意借換 此場合ハ債權者ニ國家ノ借換ニ應スルト否トノ自由ヲ許シ若シ應セサルトキハ元金ヲ償還スルモノナルカ故ニ苟モ政府カ償還權ヲ有スルトキハ借換權モ亦有スルモノト云ハサルヘカラス從テ公債ニ付キ時期ノ如何ニヨリテ借換權ノ存スルト否トアリ

(イ) 償還期限一定シ其期限ノ利益債權者ニアルトキハ借換權ナシ例之一時支拂公債有期定期支拂公債等ノ如シ反之有期隨時支拂公債及永遠公債ノ如キハ隨時ニ償還シ得ルカ故ニ借換權アリ

(ロ) 有期隨時支拂公債永遠公債ト雖モ据置期間ハ借換權ナシ是レ此期間ハ政府カ償還セサル義務ヲ有スレハナリ

(ニ) 經濟上ノ前提 即チ經濟上ノ狀況カ債權者ヲシテ現金償還ヲ選ハシルニ至ラサルコトヲ要ス

經濟界ノ狀況不良ナルトキハ現金償還ヲ請求スルモノ多ク新公債ノ債權者

借換ノ
前提

ルモノ少カルヘシ故ニ借換ヲ爲スニハ金融市場ノ利子低落シ從テ公債證券ノ價格騰貴シタル時機ヲ促サルヘカラス而シテ普通借換ノ標準トスル所ハ公債證券ノ價格カ其額面以上ニ上レルノ狀況ニ存ス蓋シ此現象ハ公債ノ利子金融市場ノ利子ヨリ甚ダ高キヲ示スモノナレハ之ヲ適當ノ點ニ低下スルモ新債ノ提供スル利子ハ尙資本ヲ他ノ事業ニ投スル以上ノ利得ヲ與フルヲ以テ債權者ハ之ヲ棄ツルコトナカルヘケレハナリ

第三 借換ノ利害

(一) 借換ニヨリテ生スル利益

(1) 借換ハ國家ノ信用ヲ高シ蓋シ之ヲ以テ國家財政ノ順ヲ得タル徵收トスルヲ得レハナリ

(二) 借換ハ利子ヲ減シテ國庫ノ支出ヲ少クシ間接ニハ人民ノ負擔ヲ輕クス

(1) 政治上ヨリ借換ヲ難スル者ハ曰ク借換ハ公債ノ利子ヲ減シ從テ債權者ノ所得ヲ減スルカ故ニ債權者ノ喜フ所トナラス若シ債權者階級ノ代表者カ議會ニ大部分ヲ占メタルトキハ行政部ノ行動ヲ妨クルコトナシトセスト

(2) 經濟上ヨリ難スル者ハ曰ク公債利子ノ低落ハ一般利子ノ下落ヲ來シ經濟

借換ノ利害

社會ノ繁榮ヲ害スト然レトモ正當ナル借換ハ一般利子低落ノ後ニ於テ之ヲ行フモノニシテ之ニ先チ行フモノニ非ス(借換ノ前掲参照)故ニ借換ハ市場利子低落ノ結果ニシテ原因ニアラス加之假令借換ノ爲ニ利子低落スルトスルモノヲ以テ經濟社會ノ繁榮ヲ害スト云フヘカラス蓋シ利子ノ低落ハ一般ニ企業ヲ盛ンシ經濟社會ノ活動ヲ見ルコトトナレハナリ

(3) 財政上ヨリ難スル者ハ曰ク公債利子ノ減少ノ爲ニ擔稅力ヲ減シ財政上不況ヲ來スヘシ又借換カ利子ヲ低フスル代リニ償還ニ關スル條件ヲ不利ニスルコトアラハ(例之永遠公債又ハ有期隨時支拂公債ヲ變シテ有期定期支拂公債トナスカ如シ)其ノ害甚シト然レトモ此等ノ弊ハ借換其モノノ弊ニ非スシテ借換方法ノ惡シキヨリ生スル弊ナリ

(三) 結論 要之借換ノ害ハ借換ノ方法宜シキヲ得サルカ或ハ他ノ原因ト偶發スルニヨリテ生スルニ過キス其利益ノ大ナルニ比スヘクモ非ス故ニ借換ハ經濟上財政上政府ノ義務ナリトナスヘシ

第二節 公債ノ整理

第一 公債整理ノ意義

公債整理ノ意

公債ノ整理トハ多種多様ノ公債ヲ整理シテ同一條件同一形式ヲ有スル公債トナ
 スヲ云フ蓋シ多種ノ公債カ雜然トシテ存スルトキハ國庫モ債權者モ不便ヲ感ス
 ルコト少ナカラス其利率ヲ異ニシ擔保ヲ異ニシ其實買價格ヲ異ニスルノ故ナ以
 テ取扱ヲ煩ニシ商取引ニ適セス此ヲ統一スルトキハ此ノ弊ヲ除クノミナラス敏
 活ナル取引ハ公債ノ需要ヲ増シ從テ公債ノ市價ヲ高カシラムルヲ得ヘク間接ニ
 ハ國家ノ公信認ヲ大ニスルヲ得ヘシ加之公債ノ整理ハ反面ニ財政整理ノ徵證ト
 ナスコトヲ得ルカ故ニ同時ニ亦公信認ヲ増スニ至ル要スルニ債權者ノ利便ト國
 庫ノ利便ト其公信認ノ増加トハ公債整理ノ目的ナリトス

第二 公債整理ノ種類

(一) 組織整理 公債ノ性質種類ヲ變更スル整理ニシテ即チ流動公債ヲ確定公
 債ニ變更スルニ外ナラス從テ政務公債ノ組織整理及財政的流動公債ノ組織整理
 アリトス

(二) 單純整理

(1) 實質的整理 確定公債中利率期限其他ノ起債條件ヲ異ニスルモノヲ統一
 シテ同一ノ利率同一ノ期限其他同一ノ條件トシテ之ニ新公債ノ名稱ヲ附ス
 レテ云フ其ノ利率同一ニスルハ長キニ向フテ常トスルカ故ニ公債ト歸ス

公債整理ノ種類

ヲ同ウス期限ノ同シカラサルモノヲ同シキモノトスルハ長キニ向フテ例ト
 ス長期公債ノ發達之ナリ終ニハ永遠公債ニ移ルコトトナルヘシ

(2) 形式的整理 利率期限等ノ實質的條件ニ觸レス單ニ形式ノミヲ統一スル
 コトアリ依リテ取引ノ便ヲ計ル爲例ヘハ日清戰役後ニ生シタル各種事業公
 債ヲ帝國五分利附公債ニ統一セルカ如シ

第七章 公債ノ償還

第一節 公債償還ノ意義及當否

第一 公債償還ノ意義

公債ノ償還トハ元金ヲ拂戻シテ公債ノ全部又ハ一部ヲ消滅セシメ以テ永久ニ負
 擔ヲ免カルルヲ云フ公債ノ消滅ニハ此外尙ホ公債ノ取消(廢棄)ノ方法アレトモ
 今日文明國ニ於テ採用セラルヘキモノニ非ス過去ノ歴史ニ見タルニ過キサルヲ
 以テ公債ノ消滅ハ公債ノ償還ニ歸スルモノト云フヲ得ヘシ

第二 償還ノ當否

公債ハ國家ノ債務ナルヲ以テ假令永遠公債ノ如キ償還ノ權利アリテ義務ナキモ
 ノニアリテモ唯一定期ニ償還スルノ義務ヲ負ハサルニ止マリ何時カハ償還セ

公債償還ノ意義及當否

サルヘカラサルモノナルコト明白ナリト雖モ尙之ニ對シテ償還不要ヲ論スルモノナキニ非ス

惟フニ償還ハ年々ノ利子額ヲ減シテ國債ノ負擔ヲ減シ從テ其公信認ヲ大ニシテ公債ノ價格ヲ高ムルノミナラス新起債力ヲ増大シ財政上好結果ヲ生スヘク國債負擔ノ減少ノ爲ニ租稅ノ負擔ヲ減シ資本ノ社會全般ニ散布セララルカ爲ニ金利ヲ減シ企業ヲ盛ナラシメ國民經濟ヲモ益スヘシ是カ故ニ公債償還ハ起債ノ時ニ定メラレタル條件ニ從ヒ有期ノモノハ有期ニ償還スルニ努ムヘク無期ノモノモ財政上償還ノ好機ヲ逸セサルコトヲ忘ルヘカラス

第二節 公債償還制度

第一 減債基金制度（強制償還制度）

(一) 減債基金制度ノ意義 減債基金制度トハ公債ヲ償還スル爲ニ一定ノ財源ヲ定メ之ヲ他ニ用ヒ得サルコトトナシ整理局其他委員會ヲシテ之ヲ管理セシムルノ制度ナリ之ヲ減債基金制度ノ歴史ヨリ見レハ本來ノ減債基金ハ尙之ヲ狭ク解スヘク舊ニ他ニ流用ヲ許ササル一定基金タルニ止マラス特殊ノ管理方法ヲ用フルモノヲ指スモノトス即チ減債基金ヲ以テ總公債ノ償還ヲ目的トス

ル獨立法人トシ之ニヨリテ買上ケラレタル公債ハ其財産ト看做シ其利子ヲハ再ヒ基金トシテ他ノ公債買上ケニ用ヒ終ニ總公債ヲ買上クルニ至リテ初メテ真正ノ償還トナリ國家モ利子支拂ノ負擔ヲ免ルコトヲ得ルモノトスルナリ是レ複利ノ觀念ヲ基礎トスルモノニシテピットノ初メテ實行セシモノナルカ故ニ之ヲピット式減債基金トモ云フ

我國ニ於ケル減債基金ノ意義ハ之ヲ國債整理基金特別會計法ニ求メサルヘカラス同法ニ依レハ國債ノ償還ノ爲ニ國債整理基金ヲ置キテ之ヲ特別會計トシ以テ一般會計ト獨立セシメ其基金ニ充ツヘキ資金ハ毎年一般會計又ハ他ノ特別會計ヨリ繰入ルルコトトナシ其繰入額ノ元金償還ニ充ツヘキ金額ハ他ノ特別會計ヨリ繰入ルルモノヲ併セテ前年度初頭ニ於ケル國債總額ノ萬分ノ百十六以上トシ三千萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス故ニ我國法ニ依ル減債基金ハ年々一般會計又ハ特別會計ヨリ一定額ノ資金ヲ繰入レ之ニ依リテ強制的ニ公債ノ償還ヲ爲サントスル特別基金ナリト云フコトヲ得ヘシ

(二) 減債基金制度ノ根據 減債基金ノ制度ハ種々ノ動機ヨリ生マレタルモノナリト雖モ其ノ根據ト見ルヘキモノハ公債償還ヲ確保シテ國家ノ信用ヲ維持セントスル思想ト複利ノ理論トニ在リ

(1) 複利論

(イ) 要旨 複利論ノ論旨トスル所ハ毎年一定額ヲ基金ニ繰入ルルトセハ其額ニヨリテ買上ケタル公債ハ利子ヲ生シ其利子ト次年度ノ繰入金トヲ合シテ更ニ公債ヲ買入レ斯クシテ一度買上ケタル公債ノ利子ヲ基金トシテ進マハ基金ハ年々累進的ニ増加シ後年ニ至ルニ從ヒ其額愈大トナリ容易ニ元金ヲ買上ケ盡スコトヲ得若シ此理論ヲ推ストキハ毎年一定額ヲ減債基金ニ繰込マストモ一度基金ヲ作り其利子ヲ増殖スレハ償還完了期コソ少シク遅ケレ複利ノ法則ノ行ハルルコトハ依然タルカ故ニ又比較的早ク而モ少額ノ金ヲ以テ多額ノ公債ヲ償還スルヲ得ヘシトナス

(ロ) 批評 複利論ハ買上公債ヲ以テ基金ノ財産トシ之ヲ利殖セントスルモノナルカ故ニ公債ノ放資利殖ヲ前提トス然レトモ國家カ自己ノ債務ヲ表彰スルモノヲ所有スル爲ニ如何ニシテ放資トナルカヲ解スル能ハス國家ハ一方ニ利子ヲ拂ヒ他方ニ利子ヲ受取ルニ過キス而シテ其利子ハ租稅其他ノ收入ニ依リテ支拂ハルルモノナルカ故ニ公債自ラ償還力ヲ有スルニ非スシテ償還力ヲ有スルモノハ租稅其他ノ國家收入ナリ是カ故ニ複利論ハ畢竟租稅其他ノ收入ノ一定額カ永キニ亘リ減債基金ニ所屬スルコト

ニ歸スヘシ從テ複利論ノ是非ハ一定ノ國家收入ヲ永ク減債基金ニ固定スルノ得失如何ノ問題ニ歸ス

(2) 信用維持説

(イ) 要旨 減債基金ヲ設クルトキハ公債償還力無窮ニ延ハサルノ虞ナク又債權者ハ之ニヨリテ債務ノ履行ニ關シ危惧ノ念ヲ抱クコトナキニ至ル從テ此制度ハ國家カ其負擔ヲ減シ又公信認ヲ増スカ爲ニ必要ナリトス

(ロ) 批評 然レトモ永遠公債ノ如キハ必スシモ償還ヲ必要トセサレハ年々ノ償還ヲ以テ信用維持ノ條件トスヘカラス且ツ國家ノ信用ハ財政ノ順調ニ依リテ維持セラルルモノナルカ故ニ信用維持説ニヨルモ減債基金カ果シテ財政ノ順調ニ資スルモノナリヤ否ヤヲ檢セサルヘカラス是ニ於テカ又吾人ハ一定ノ國家收入ヲ永ク一定ノ目的ノ爲メニ固定スルコトカ財政ニ如何ナル影響ヲ與フルカヲ明ニセサルヘカラス

(ハ) 減債基金制度ノ得失 減債基金制度ノ影響ハ之ヲ三ツノ點ヨリ觀察スルコトヲ得ヘシ

(1) 財政ノ伸縮ニ及ホス影響如何 抑モ國家ハ永久ノ生命ヲ有シ其間必ス波瀾アリ從テ財政ハ變ニ應スルノ餘地ヲ存セサルヘカラス而シテ此餘地ヲ存

減債基金制度

スルハ財政ヲシテ自由ニ伸縮スルヲ得シムルカ爲ニハ其收入ヲ一定ノ用途ニ固定セシメサルヲ要ス然ラサレハ事アル際ニ其不急ナル經費ヲ辨スルコトヲ得サルヘシ果シテ然ラハ減債基金制度ハ明ニ財政ノ伸縮ノ自由ヲ妨クルモノト云フヘシ

(2) 所期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ 減債基金カ其目的ヲ達スルニハ財政上金融上諸種ノ條件ヲ必要トス

(イ) 財政上ノ條件 トシテハ減債ノ目的ヲ達スヘキ資源ヲ有セサルヘカラス然リ而シテ其資源ハ財政上ノ餘裕即チ歳入剩餘ニ外ナラス蓋シ之ヲ公債ニ求ムルトキハ公債ヲ減スルノ目的ハ達シ得ヘカラス又増税ハ限リアリテ之ヲ行フコト容易ナラサレハナリ從テ第一ノ條件トシテ歳入剩餘ノ存スルコトヲ要ス然ルニ歳入剩餘アルモ他ニ重要ナル經費ヲ生スルトキハ之カ支辨ニ充テサルヘカラス故ニ第二ノ條件トシテ公債償還ヨリモ尙必要トスル經費ノ増シ來ラサルコトヲ要ス又若シ此ノ如キ經費ノ増シ來ルトキハ何時ニテモ増税ヲ爲シ得ルコトヲ要ス然ルニ此等ノ諸條件ハ一兩年ニ於テ云ヘハ或ハ之ヲ充タスコトヲ得ヘシト雖モ減債基金ノ如キ其效ヲ成スニ長年月ヲ要スルモノニ從テ是等ノ條件カ長キニ亘リテ充サ

レ得ルコトハ如何ナル國ニ於テモ到底不可能ニ屬スト云フヘシ

(ロ) 金融上並ニ國民經濟上ノ條件 トシテハ内債外債ヲ區別シテ見ルヘシ外債ヲ償還セントセハ少クトモ國際貿易順調ニシテ正貨流入ノ趨勢アルヲ要ス蓋シ正貨流出ノ傾アル際ニ外債ヲ償還スルトキハ更ニ正貨ヲ流出セシメ中央銀行タル換制ノ危機ヲ招致スルニ至ラン又内債ヲ償還セントセハ金融緩漫ノ時ヲ避ケサルヘカラス然ラズンハ金融緩漫ヲ助長シテ經濟上ノ弊害ヲ生スヘケレハナリ然ルニ是等ノ二條件即チ正貨ヲ流入(外國貿易ノ順調及金融逼迫ノ狀態ハ一兩年ハ兎モ角モ長キニ亘リテ其繼續ヲ期スヘキニ非ス

要之減債基金ハ其性質上容易ニ目的ヲ達シ得サルモノト斷セサルヘカラス

(3) 減債基金制ヲ墨守スル爲ニ生スル結果如何 減債基金ヲ墨守スルトキハ必ス右ニ償還シ左ニ起債スルノ止ムナキニ至ラン蓋シ前述ノ如ク歳入剩餘ナクシテ減債基金ニ充ツヘキ資金ヲ得ントセハ勢ヒ起債ニ依ラサルヘカラス又假令歳入剩餘アルモ他ニ重要ナル經費ヲ生シ又ハ増シ來タルトキハ歳入剩餘ヲ之ニ充テ又ハ新ナル起債ヲ以テ之ニ充ツルノ止ムナキニ至レハナ

斯クシテ一方ニ償還シ他方ニ起債スルノ結果ハ音ニ減債基金ノ目的ヲ達スル能ハサルノミナラス更ニ國家財政上ニ損失ヲ及ホスモノトス即チ

(イ) 右ニ起債シ左ニ償還スルカ爲ニ國家ハ費用ヲ投セサルヘカラス

(ロ) 國家ハ發行價格ト償還價格トノ差ニテ損セサルヘカラス蓋シ發行價格ハ額面ヨリ以下ナルヲ常トス然ルニ償還ハ抽籤方法ニヨルトキハ額面ニヨルヲ以テ其價格勿論高ク若シ買上ニヨルトスルモ買上價格ハ市場價格ナレハ又發行價格ヨリ高シトイフヘシ是レ國家カ公債ヲ賣ラントスレハ其瞬間ニ市場價格ハ下落シ買ハントスレハ反對ニ騰貴スルヲ常トスレハナリ

(ハ) 國家ハ利子ノ差ニ於テ損セサルヘカラス左ニ償還シ右ニ起債スルトキハ低利公債ヲ償還シテ高利公債ヲ起スコトニ歸著ス蓋シ斯カル方法ハ國家ノ信用ヲ厚フスル所以ニ非サレハナリ若シ新舊公債カ利子ニ差違ナキヲ期スルコトアランモ起債ニ於テ發行價格ヲ一層下ケサルヘカラスレヘシ何レニスルモ國家ノ損失ナルハ一ナリ

(註) 減債基金ハ上述ノ如ク辯護ノ餘地ナキモノナリト雖モ採算ヲ超越シ

タル國家ノ大政策ノ爲メニ存スルコトアリ即チ有事ノ際ニ減債基金ヲ以テ突發事件ニ備ヘントスルコト是ナリ是レ減債基金ヲシテ戰爭準備金ノ性質ヲ帶ハシメントスルモノニシテ從來ノ減債基金論ヲ以テ律スヘカラス戰爭準備金カ必要ナルコト既述ノ如クナル以上斯カル減債基金ハ之ヲ認ムルニ吝ナラス

第二 自由償還制度

(一) 自由償還制度ノ意義 自由償還制度トハ國家カ法令ニ依リテ強制的ニ償還義務ヲ負フコトナク財政ノ狀況剩餘金ノ如何ニヨリテ豫算上ニ於テ其ノ償還ノ程度ヲ決スルノ制度ヲ云フ

此制度ハ財政ニ剩餘ヲ生シタルトキ其剩餘ヲ以テ公債ヲ償還セントスルモノニシテ剩餘ナキトキハ之ヲ償還セントスルモノニ非ス其ノ償還ハ財政ノ餘裕ト共ニ自由ニ伸縮スルモノナリ是レ自由償還ノ名アル所以ナリ

此ノ制度ニ於テハ償還ノ財源ハ之ヲ剩餘金ニ求ム然ルニ剩餘金ハ常ニ之ヲ公債ノ償還ニ用フルノミト決スルヲ得ス若シ惡税ノ廢スヘキモノアリ又新事業ノ計畫緊急ナルトキハ剩餘金ハ之ニ充テサルヘカラス故ニ公債償還ノ財源ハ

自由償還制度

原則トシテ剩餘金ニ求メシルヘカラスト雖モ其償還ヲ決スルニハ減税ノ必要ト新事業ノ必要ト相比シテ其輕重ヲ定メサルヘカラスト

(二) 自由償還制度ノ得失 自由償還制度ノ下ニアリテハ減債ト減税及事業トヲ比シテ何レカラ決スルカ故ニ一定收入ヲ固定シテ財政ノ伸縮ヲ缺クカ如クモ成ナク又一方ニ公債ヲ償還シテ他方ニ起債スルコトナク減債基金制度ニ對スル非難ハ全ク除去スルヲ得ルノミナラス多ク場合ニハ公債ニヨラス剩餘金ニヨラシムルカ故ニ公債濫用ニ對スル保障トモナルヘキナリ

然レトモ自由償還制度ハ剩餘アルトキハ償還スルハ可ナルカ故ニ動モスレハ償還ヲ怠リ公債ヲシテ累積スルニ至ラシムルノ弊アリ故ニ自由償還制度ノ下ニアリテモ低利借換ヲナストキハ可成其利拂ノ減少額ヲ公債ノ償還ニ當テ或ハ生産的公債ハ其公債ニ依リテ起サレタル事業ノ收益ニヨリテ償還ヲ期スルカ如キ方法ヲ採リテ公債額ヲ減少シ常ニ起債餘力ヲ大ナラシムル政策ヲ採ラサルヘカラスト

要之自由償還制度ハ最モ能ク財政ノ性質ニ適合シ實ニ其有機的成分ノ一ヲ爲スモノト云ハサルヘカラスト

第三節 公債償還ノ時期及方法

第一 償還ノ時期

- (一) 一年度内如何ナル時期ニ於テスヘキカ
- (1) 財政上ノ見地 ヨリ云フトキハ償還カ普通剩餘金ヲ以テスル以上其ノ償還ノ時期モ普通金庫ニ剩餘金ノ存スル場合ニ於テスヘシ即チ收支ノ關係上收入ノ多ク入り來ル時ヲ以テスヘシ
- (2) 經濟上ノ見地 ヨリ見ルトキハ金融ノ緩漫ナル時又ハ投機ノ起ラントスル際ニ償還ヲ行ハハ却テ其ノ勢ヲ大ナラシムヘク金融ノ逼迫セルトキハ之ヲ救フヘシ

(二) 同一年度内ニ於テ償還ハ一時ニナスヘキヤ數時ニナスヘキヤ 經濟上ヨリ云ハハ數時ニ之ヲナスヘシ蓋シ一時ニ巨額ノ償還ヲナストキハ金融ノ緩漫ヲ來シ又資本家ハ償還ヲ受ケタル資本ヲ利用スルノ途ナキニ苦メハナリ財政上ヨリ云ツモ一時ニ多額ノ支拂ヲナスハ收支ノ平衡ヲ破ルノ虞アリ

第一 償還ノ方法

(一) 抽籤方法 償還額ヲ定メ抽籤ニヨリテ其當籤者ニ額面ヲ以テ償還スル方

償還ノ時期

法ナリ若シ公債ノ時價カ額面以下ナルトキハ此方法ハ不當ニ債權者ヲ益シテ
國庫及其納稅者ヲ害スルコトトナルヘク其當籤者カ全國中種々ノ土地ニ住ス
ルトキハ資金離散シテ金融市場ヲ益スルコトナシ故ニ此方法ハ公債ノ市價カ
平價以上ニ在ルトキニ用フルヲ可トス

(二) 買上償還 國庫カ取引所又ハ其他ノ公債所有者ニ就テ公債ヲ時價ニテ買
入レ以テ償還ヲ了スル方法ナリ此ノ方法ニヨルトキハ同額ノ金ヲ以テ多額ノ
償還ヲナスコトヲ得ルノミナラス公債ノ市價下落ヲ防止スルコトヲ得ヘシ加
之金融逼迫セル地ニ於テ買入ルトキハ此地ニ資金ヲ注キテ之ヲ救フノ作用ヲ
ナス從テ國庫ヨリ見ルモ金融上ヨリ見ルモ利益ヲ生スト云ハサルヘカラス
買上償還ヲナスハ其價格カ平價以下ニ存スル場合ニ於テスルヲ普通トス若シ
平價以上ニテ買上クルトキハ多額ノ金ヲ以テ小額ノ公債ヲ償還スルニ止マリ
國庫ノ損失ヲ招キ間接ニ租稅者ヲ害スルコトトナリ財政上ノ弊ヲ生スヘシ或
ハ平價以上ノ買上ハ愈公債價格ヲ高ムルヲ得ヘキヲ以テ金融政策上ヨリ之ヲ
辯護スルモアルモ若シ國家ニ變事アリテ買上償還ヲ中止スルトキハ公債價
格ハ一時ニ暴落スヘク其弊ニ堪ヘサルヘシ

(三) 償還ハ又豫算ニ於ケル起債ヲ中止シ償還ノ資金ヲ起債ノ目的ニ用フルニ

償還ノ
方法

ヨリ之ヲ爲スコトアリ 即チ起債ト償還ト併セ行ハルル場合ニ償還額丈起債
ヲ減スルモノナリ然レトモ國家ノ公債ト云フ觀察ヨリスレハ公債ノ減少トナ
ラス唯公債ノ増加ヲ妨クルニ過キス減債基金ニ依ル償還ニ之ヲ用ヒハ減債基
金ノ弊ハ半ハ救フコトヲ得ヘシ

第五編 財務論

第一章 總論

第一 財務論ノ意義

茲ニ財務論ト云フハ學者ニヨリテ或ハ豫算決算會計論等ト稱セラレルモノニシテソグネル氏ノ所謂形式的財政秩序論ナリ抑々國家ノ財政ハ之ヲ實質的ト形式的方面トニ分ツテ得ヘク其經費ヲ査定シ之ニ應スル財源ヲ案出シ及其收支不適合ニ對シ之カ填補ニスルコトヲ論スルハ實質的財政論ニシテ其必要ナル經費ヲ適當ニ支出シ之ニ充當スヘキ財源ヲ確實ニ收納シ且是等ノ收支出納ニ關スル實行ノ整理ニ付テ一定ノ秩序アル活動ヲ爲シ及其組織ヲ論スルハ形式的財政論ナリ國家ノ實質的財政ハ形式的財政ヲ俟ツテ始メテ適當ノ整理ヲ得ルモノナリ

財務論
ノ意義

形式的財政ヲ律スルモノハ歲計ノ整理ニ關スル法規ナリ歲計ノ整理ニ關スル法規中最モ重要ナル事項ハ豫算ノ成立ニ關スルモノニシテ之ニ次クハ豫算ノ準備

及歲計ノ執行ニ關スル設備及手續ノ法規即チ會計法規ナリ又豫算ト歲計ノ執行トノ關係ニ付キ收支ノ要不要當不當ヲ検査監督スルニハ特別ノ法規ト特別ノ設備トヲ要スヘシ

第二 財務論ノ地位

從來財務論ハ一部ハ憲法ニ於テ一部ハ行政法ニ於テ論セラレタルカ故ニ其地位曖昧ナルモノアリ最近獨立シテ論セラルルニ至リシト雖モ從來ノ例ヲ追ヒ財政學者中深ク之ヲ論スル者ナシ本書ニ於テハ憲法要覽行政法各論要覽ト重複セサル範圍内ニ於テ之ヲ述ヘントス

第三 豫算決算上ノ機關

會計上ノ機關中獨立セル根本機關トシテハ政府議會及ヒ會計検査院アリ即チ議會ハ豫算ヲ議定シ政府之ヲ執行シ會計検査院ハ事後ニ之ヲ審查ス

政府トシテ會計上ノ主腦機關ハ大藏大臣ナリ豫算ノ編成ヲナシ決算ノ調製ヲナシ國庫金ノ取扱ヲナス等即チ財務ノ總括者タルナリ

第四 會計年度

會計年度トハ財政ノ計畫並ニ其實行ヲ區分スル期間ナリ私經濟ニ於ケル事業年度又ハ計算年度ト似タリ蓋シ國家ノ收入支出ハ國民經濟ト密接ノ關係アルコト

財務論
地位
及豫算
決算
ノ機關

會計
年度

既述ノ如シ從テ財政計畫ヲ組織スル經費及收入ハ何レモ民間ノ産業計畫ヲ考慮シテ之ヲ定ムヘク又民間ノ産業狀態ニ依リ其額ニ變動アルヲ免カレサルヲ以テ一國ノ財政計畫ハ經費ニ對スル經常收入臨時收入ノ配合ヲ整理シ且ツ之ヲ一定期間ニ區分スルニ非サレハ殆ント之ヲ立ツル能ハス加之財政計畫ノ實行上一定年度ナクハ計畫ト實行トハ往々齟齬シ收支ノ不平衡ヲ生シ途ニ收理スルニ途ナキニ至ラン唯年度ノ區分アルニ依リテ經費ノ緩急ヲ知り前年度ト比較シテ次年度ノ事業ヲ發行シ以テ計畫ト實行ト調和均衡ヲ得ルナリ

(一) 會計年度ノ期間 會計年度ノ期間ハ通常一年ナリ我國亦然リ若シ之ヲ長期トセハ豫算ト實行トカ非常ニ隔タリ又之ヲ短期トセハ豫算ト決算トノ調節ニ忙殺サルヘク故ニ一年ヲ適當トス但戰費其他ノ臨時事件費ニアリテハ其事件ノ始メヨリ終マテヲ一會年度ト定ムルコトナキニ非ス是レ例外ノ便法ニ過キス

(二) 會計年度ノ始期 我國ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル一般ニ始期ヲ定ムル條件次ノ如シ

- (1) 會計年度始期カ豫算議決ノ時期ト餘リ隔タサルコト
- (2) 歳入ノ多キ時期ヲ選フコト 之ハ租税ノ納期ニ關シテモ論シ得ルコトニ

シテ納期ノ改正ニヨリ會計年度ノ始期ニ收入多キヲ期シ得ヘシ然レトモ結局國家ノ收入ハ國民經濟ト關係スルモノナレハ

(3) 始期ハ民間ノ金融緩漫ナルトキヲ選フヘシ 我國ニ於テハ盆暮ノ慣習アルヲ以テ七月ヲ始期トナスヘシトノ論アル所以ナリ

第二章 豫算

第一節 豫算ノ意義及種類

豫算ハ一會計年度ニ於ケル國ノ歳入歳出ノ見積ナリ 之ヲ法律上ヨリ見レハ豫算ハ一定ノ期間ニ於ケル收入支出ノ數字の見積ナリ(憲法要覽二二六頁參照)

第一 總豫算(一般豫算)

一般會計ニ關スル豫算ニシテ一會計年度ニ於ケル總歳入總歳出ヲ網羅シタルモノナリ

第二 明細豫算

我國ノ各省豫定經費要求書ニ當ル即チ總豫算ノ内譯及説明ヲ示シ且前年度豫算ニ對スル増減ヲ明ニシタルモノナリ故ニ總豫算ハ憲法上ノ形式豫算トイヒ明細豫算ハ財務上ノ實體豫算トイハル

豫算ノ種類

第三 特別豫算

特別會計ニ關スル豫算ニシテ國家ノ特別機關又ハ事業ニ關スル特別會計ヲ設クルノ必要ニ因リ一般會計ノ總豫算ト分離シテ別ニ收支ヲ立ツル豫算ナリ其主ナル理由ハ

- (一) 沿革上特別會計トシテ發達シ來レル場合
- (二) 事業ノ經濟的獨立又ハ安全ヲ期スル爲メ必要アル場合
- (三) 會計ノ獨立地位ヲ保タシムル要アル場合
- (四) 殊ニ資金ヲ要シ其流用ヲ禁スル要アル場合

第四 追加豫算

總豫算及特別豫算カ編成セラレシ後若クハ編成セラレントスルトキニ更ニ豫算ノ必要ヲ生シ此等ノ補充的延長的ノ豫算トシテ編成セラルルモノヲ云フ一國ノ豫算ハ總豫算特別豫算ニテモ既ニ複雜ナルモノナレハ追加豫算カ非常ニ増加スルトキハ不便甚シキカ故ニ追加豫算ヲ濫用スルハ慎マサルヘカラス我會計法ハ「必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ノ外ハ追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス」ト規定セリ(會計法五條二項)

第五 支拂豫算

行政組織ノ分配ヲ基礎トスル内譯豫算ナリ即チ實際上支拂命令ノ發行及金庫ノ出納上準則ヲナスモノナリ

第二節 豫算編成ノ方式及分科

第一 豫算編成ノ方式

(一) 總額式 總歳入ト總歳出トヲ計上スル編成式ニシテ一切ノ收支ヲ其儘ニ計上スルモノトス此レ財政事實統一通覽ノ目的ニ適ヒ概算編成ノ常例タルモノナリ

豫算編成ノ方式

(二) 純額式 各款項ノ純額ノミヲ計上スル方式ニシテ收入ハ之ニ要ス收入費ヲ控除シタル殘額ヲ計上シ支出ハ之ニ伴フ收入額ヲ控除セル殘額ノミヲ計上スルモノトス此方式ハ豫算ノ統一通覽ヲ妨ケ豫算上ノ金額ヲ表面上總額式ニヨルヨリモ少額ナラシメ財政ノ膨脹ヲ隱蔽スルノ手段トナリ財政ノ監督ヲ困難ナラシム

第二 豫算ノ分科

豫算ノ分科ハ豫算科目ノ分配方法ナリ

(一) 豫算ハ先ツ歳出及歳入ノ二大要部ニ區分シ兩部共ニ之ヲ經常及臨時ノ二

豫算ノ分科

部ニ區分ス

(一) 經常及臨時ノ二部ハ更ニ歳出ニ付テハ所管別トシ歳入ニ付テハ事項別ニ區分ス歳出ハ現在十省別トシ内閣樞密院會計検査院行政裁判所貴衆兩議院ノ經費及各省全體ニ亘ル豫算(例之缺損補填金諸拂戻金剩餘金)其他ハ大藏省所管トス(經費論參照)

(二) 以上ハ更ニ款項ニ區分サル之ヲ款項ノ區別又ハ立法區分ト云フ蓋シ豫算ノ款項ハ議會カ豫算ヲ議定スルニ付テ最少ノ單位ニシテ(憲法六四條二項)又各項ノ全額ハ流用スルコトヲ得サルモノナリ豫算ノ目的ハ之ニヨリテ達ス

(三) 項ヲ更ニ分チテ目節トス之ヲ行政區分ト云フ蓋シ此區分ハ大藏大臣ノ承諾ヲ得テ流用スルコトヲ得ヘシ

第三節 豫算ノ編成及議定

第一 豫算ノ準備

(一) 編成ノ時期 豫算ハ正確ニ編成スルニ不拘實施ノ場合ニハ實際ニ適セスシテ過不足ヲ生シ又豫算ノ豫想セサル費用ヲ生スルコトアリ此等ヲ少クシテ豫算ヲ實際ニ近カラシムルニハ豫算編成ノ時期ト實施ノ時期トノ期間ヲ適當

ニ定メサルヘカラス我國ニ於テハ歳入歳出豫算概定順序(明治三十二年閣令)アリ之ニ依レハ各省大臣ハ來年度ニ必要ナル歳出入ノ概算書ヲ毎年五月三十一日迄ニ大藏大臣ニ提出シ大藏大臣ハ之ヲ基礎トシテ六日末日迄ニ總歳出入ノ概算書ヲ作り而シテ内閣ニ於テ之ヲ七月十五日ニ決定シ此決定ニ基キ各省大臣ハ其範圍内ニ於テ豫定經費要求書ヲ八月末日迄ニ大藏大臣ニ提出ス大藏大臣ハ之ニ依リ詳細ノ歳入歳出豫算ヲ作り十月頃迄ニ内閣ニ提出シ内閣ハ十一月頃ヨリ十二月初メニ之ヲ決定スルモノトス

豫算ノ準備

(一) 豫算ノ評價 大體ノ原則トシテ歳出豫算ハ多少多ク見積リ歳入ハ少シク少額ニ見積ルヘシ

(1) 歳出ノ見積 歳出ヲ甚シク多ク見積ルトキハ濫費ノ弊ヲ生ス又甚シク少額ニ見ルトキハ豫算實行ニ際シ直ニ經費ニ不足ヲ生シ豫備金ノ使用追加豫算ノ提出トナリテ甚シク不便ナリ之カ見積リヲナスニハ經費ノ自動的 he 動的性費ヲ注意セサルヘカラス即チ俸給ノ如キハ自動的ニシテ豫メ正確ニ決定スルコトヲ得ヘシ又退官賜金恩給ノ如キハ全然自動的ニシテ例之第一豫備金ニヨリ補充スルコトヲ得然ルニ自動的 he 動的ノ兩分子ヲ含ムモノ例之工事ノ如キハ其ノ工事ニ從事スル人ニ對スル費用ハ自動的ナレトモ工事ノ

風水害ノ障害材料ノ騰貴等ハ自動的ナルヲ以テ此等ノモノニ關シテハ多少ノ安全率ヲ取り見積ヲ多クセサルヘカラス

(2) 歳入ノ見積 歳入ハ多ク見積ルコトトナキモ若シ之アルトキハ危險ナリ反之見積リ過少ナルトキハ不必要ナル租稅ヲ取立ツルコトトナルヘク且過大ノ剩餘金ヲ生スルハ健全ナル財政ニアラス從來我國ノ歳入見積リハ過少ニシテ其剩餘金ヲ自由ニ費消シタル加キハ其ノ憲法違反ナリヤ否ヤハ別トスルモ尙憲法ノ精神ニ反シ豫算及其議定ヲ無意義ニスルモノナリ唯正確ナル豫算ニヨリ年々規則正シク少額ノ剩餘金ヲ生スルコトハ財政ノ健全ナル

證タルノミ

第二 豫算ノ提出及議定

豫算ハ議會ノ初ニ提出スルヲ要シ(會計法五條)其議定ハ先ツ衆議院ニ於テ(豫算先議權)スルコト及議會ノ議定權ノ範圍等ニ關シテハ憲法要覽ニ詳述セルヲ以テ茲ニ贅セス

(一) 豫算ニ附隨シテ提出スヘキ書類ニ各省ノ豫定經費要求書(八月三十一日マテニ提出スヘキモノ)アリ更ニ來年度ノ豫算議定ノ參考トシテ昨年度三月三十一日現在ノ國庫ノ歳出歳入現計書ヲ提出スルヲ要ス

豫算ノ提出及議定

(二) 尙豫算ト密接ノ關係アル事項ニシテ豫算ノ效力ヲ補充シ議會ノ財政監督ノ效果ヲ擧ケシムル爲ニ歲計事項ニ關シ議會ノ議定ニ付スヘキモノアリ即チ國債大藏省證券ノ發行一時借入金ヲ始メ豫算超過及算外支出豫算外國庫負擔ノ契約緊急財政處分ニ關スル事項是ナリ

第四節 豫算ノ效力

豫算ノ效力トハ豫算ニヨリテ現ハレタルトキノ區分及項ノ區分ヲ遵守セシムルニ在リ

豫算ノ效力

- (一) 年度轉換ノ制限(時ノ區分) 甲年度ノ定額ヲ以テ乙年度ノ歲計ニ流用スルコトヲ制限スルナリ即チ甲年度豫算ノ殘額ハ之ヲ不用額ニ立テ乙年度ノ定額ニ繰込ミ又ハ乙年度ノ經費ニ充用スルヲ許ササルナリ但シ年度ノ所屬ヲ決スルニ困難ナル場合(例之工事ノ經費官吏ノ旅費)ニ特ニ法令ニヨリ豫算ノ繰越ヲ認ムルコトアリ
- (二) 科目流用ノ禁止(項ノ區分)
- (1) 豫算各項ノ定額ハ各々其ノ目的外ニ使用スルヲ許サス
 - (2) 各項ノ定額ハ彼此流用スルコトヲ許サス

(3) 收入ト支出トノ差引ヲ許サス(總額豫算式ノ結論ナリ)

第五節 豫算ノ不成立

豫算不成立ノトキハ前年度ノ豫算ヲ施行ス(憲七一條)特ニ述フヘキモノ左ノ如シ

第一 大藏省證券ノ發行額

大藏省證券ノ發行制限ハ豫算ノ一部ニハ非サレトモ其限度ハ畢竟豫算ノ總額ニ對比シテ適宜定メラレタルモノト見ルヘキカ故ニ前年度ノ豫算ト共ニ前年度ノ限度ハ本年度ノ制限額ト解スヘキナリ

第二 特別會計豫算

我國ニテハ一般會計ノ不成立ノトキモ特別會計ハ成立スルモノトナスモ所謂特別豫算ノ歲入ハ鐵道豫算ヲ除キ一般會計ヨリ受クルモノナレハ一般會計ナキ場合ニ成立スル能ハサルヘシ

第三 追加豫算

追加豫算ハ總豫算特別豫算ノ補充的延長的ノモノト解スヘク從テ追加豫算ノミ

豫算ノ不成立

成立シ得ヘシ

第三章 歳計ノ執行

第一節 總論

歳計ノ執行トハ法令ノ規定ニ從ヒ且豫算ニ準據シテ歳出及歳入ノ出納又ハ豫算ヲ爲スコトアリ今我會計法ニヨリ歳計執行ノ大要ヲ述フルニ先チ次ノ事項ヲ明ニセントス

第一 歳計ノ所屬年度

歳計ノ所屬年度トハ歳入歳出ナル事實カ何レノ會計年度ニ屬スルモノナルカヲ區分シ定ムルモノナリ我會計規則ニヨリ之ヲ見ルニ

(一) 歳入ノ所屬年度

- (1) 納期ノ一定セル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度ノ歳入トス
- (2) 隨時ノ收入ハ納額告知書ヲ發行シタル日又ハ金額ヲ領收シタル日ノ屬スル年度ノ歳入トス

(二) 歳出ノ所屬年度

- (1) 公債元利賞勳年金恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度ノ歳出トス

歳計ノ所屬年度

- (2) 諸拂ノ戻金缺損費ハ拂戻又ハ補填決定ヲナシタル日ノ屬スル年度ノ歳出トス

- (3) 俸給旅費ノ類ハ支給事實ノ生シタル年度ノ歳出トス

- (4) 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲナシタル日ノ屬スル年度ノ歳出トス但契約ノ數年ニ亘ルモノハ契約上ノ支拂期日ノ屬スル年度ノ歳出トス

- (5) 前各項ニ掲ケル類別ニ屬セサル費用ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ歳出ノ屬スル年度トス

第二 出納整理期間

歳入歳出ノ出納ハ會計年度内ニ整理ヲ完了スル能ハサルヲ以テ茲ニ會計ノ整理期間ヲ生ス我會計法ニヨレハ

- (一) 支拂命令ノ發行期限ハ翌年度五月末日限トス

- (二) 金庫ノ出納期限ハ翌年度ノ六月末日限トス

- (三) 帳簿ノ締切リ期限ハ翌年度ノ十月末日トス

- 第三 收入支出ノ時効

國庫ノ收支ノ時効ハ民法上ノ普通ノ時効ト同様ナル能ハス蓋シ其數量巨額ニシ

出納整理期間

收入支出ノ時

- テ且官吏ニ私人ノ如キ注意ヲ國庫ノ債權債務ニ拂ハシメンコト難ク又國庫ノ出納ハ整理ヲ速カナラシムルノ必要ナルカ故ナリ故ニ諸國ハ特別ノ時効期間ヲ定ム我會計法ニヨル時効左ノ如シ
- (一) 時効期間 五年ヲ以テ國庫ニ關スル債權債務ノ時効期間トス
 - (二) 時効ノ中断
 - (1) 政府ノ支出スヘキ債務ノ時効ハ債務確定ノ年度經過後五年内ニ債主ヨリ支出ノ請求又ハ支拂ノ請求アルトキハ中断ス
 - (2) 政府ノ收納スヘキ金額ニ關スル時効ハ其義務確定ノ年度經過後五年内ニ政府ヨリ納入ノ告知アルニ因リ中断ス

第二節 收入ニ關スル事務

第一 收納機關

- (一) 納人ヨリ租稅其他ノ歳入ヲ徵收シ之ヲ保管スル機關ヲ分チテ三トス
- (二) 命令機關 我會計法ニ所謂歳入徵收官ナリ即チ納稅又ハ納入告知書ヲ發行シ之ヲ執行スル官吏ナリ
- (三) 領收機關 支拂ハレタル現金ヲ領收スル機關ニシテ金庫之ニ當リ金庫ノ

收納機關

手收續納

- (一) 設備ナキ所ニテハ市町村又ハ收入官吏トス
- (二) 保管機關 領收セル現金ヲ保管スル機關ニシテ通常金庫之ニ當リ一時收入官吏ヲ以テ當ラシムルコトアリ
- (三) 第二 收納手續
 - (一) 租稅徵收ノ手續 一定ノ納期アル租稅ハ各稅法ニ依ルノ外國稅徵收法ノ規定ニ從ヒ隨時ニ徵收スル租稅ハ各稅法ニ依リ徵收シ國稅徵收法ニ依ラサル場合多シ
 - (二) 稅外收入收納ノ手續 租稅外ノ收入ニ付テハ各廳長官其他ヨリ發スル收納命令ニ依リ部下ノ收入官吏又ハ金庫ニ現金ヲ納付セシムルモノニシテ其強制ノ方法トシテ國稅徵收法ニ依ルモノハ行政上ノ執行ニヨリ然ラサルモノハ司法上ノ執行ニヨリ徵收ナリ

第三節 支出ニ關スル事務

第一 支出ノ機關

- (一) 命令機關 支拂命令ヲ發スル機關ナリ我會計法上所謂支拂命令官ナリ國務大臣又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ナリ

支出ノ機關

- (一) 支拂機關 現金ヲ支拂フ機關ニシテ金庫之ニ當ルヲ本則トス但シ現金前渡ノ官吏又ハ銀行之ニ當ルコトアリ
- (二) 保管機關 金庫及現金前渡官吏若ハ銀行ハ各債權者ニ現金ノ支拂ヲ爲スニ至ルマテ其有スル現金ヲ保管ス

第二 支出ノ手續

- (一) 會計法上ノ債權者 會計法上ハ國庫ニ對シ支出ノ請求權ヲ有スルモノニシテ左ノ如シ
 - (1) 正當債主即チ法律命令又ハ契約上政府ニ對シ債權ヲ有スルモノ
 - (2) 現金前渡官吏
 - (3) 現金前渡ノ銀行
 - (4) 現金保管機關
- (二) 支拂命令 支拂命令トハ會計法上ノ債權者ノ爲ニ現金ノ支拂ヲ金庫ニ命令スル切符ニシテ支拂命令官之ヲ發ス各省大臣ハ各年度豫算定額ニ基キ支拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メテ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ支拂命令官ニ配布シ同時ニ大藏大臣ヲ經テ之ヲ金庫ニ送付ス各支拂命令官ハ此ノ支拂豫算ニ基キテ正當債主又ハ其代理人ノ爲ニスル支拂命令ヲ發スルモノナリ

支出ノ手續

支拂命令ハ豫算科目上ノ項毎ニ發セサルヘカラス又通常豫算メ案内支拂命令ヲ金庫ニ送付スルヲ例トス

第四節 收入ノ殘額及變態收支ノ整理手續

第一 收入

- (一) 過年度收入 我會計法ニ所謂出納完結シタル年度ニ屬スル收入ナリ即チ過去ノ年度ニ於テ既ニ收納ノ權利確定シタルモ徵收命令ヲ發セサリシ爲メ未ダ徵收済トナラサル收入殘額ナリ此種ノ收入ハ其實際徵收セララル年度ノ歳入ニ組入レテ整理ス
- (二) 豫算外ノ收入 既ニ收入ヲ爲シタル年度ノ收入トシテ整理ス
- (三) 返納金
 - (1) 後拂 過渡ノ返納金ハ其返納シ來レル年度ニ依リテ整理ス
 - (2) 前渡金概算渡繰替拂ノ返納金ハ其ノ返納金カ出納完結前ナルトキハ定額ニ戻入シ出納完結後ナルトキハ返納シタル年度ノ歳入トシテ整理ス

收入

第二 支出

- (一) 過年度支出 或年度ニ於テ政府ノ債務トシテ確定シタル經費ニシテ支出

支出

- ノ請求ヲ受ケサルタメ過去ノ年度ニハ支拂命令ヲ發セラレヌシテ後五年内ニ
 之カ請求ヲ受ケ支出ヲ要スルニ至レルモノナリ此場合ニハ實際ニ支出シタル
 年度ノ歳出トシテ整理ス
- (一) 定額繰越 豫算定額ノ未使用殘額ヲ國庫ニ返入セスシテ翌年度ニ繰越シ
 其儘同一費途ニ使用スルナリ
- (1) 豫算ニ於テ繰越明許ヲ與ヘタル場合
- (2) 一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メ事業
 ヲ遲延シ後年度内ニ使用シ了ラサル經費
- (3) 繼續費ノ場合 竣工年度マテハ年々支拂殘額ニ對シ通次ニ繰越使用ヲ許
 ス

第五節 特別會計ノ收支手續

特別會計ノ收支手續

- 特別會計ニ於ケル收支出納ハ之ヲ受拂ト稱ス大體ニ於テ其收支手續ハ一般會計
 ト異ナラサレトモ尙ホ特殊ノモノアリ
- (一) 特別會計ノ受拂ハ物品ノ價格ヲ包括スルモノナリ
- (二) 特別會計ニ在リテハ實際ノ收入及運轉資本ノ會計額ヲ超エテ支出ヲナス

ヲ得ス

- (三) 作業特別會計ニ在リテハ受拂ノ猶豫期間ヲ存セサルヲ例トス

第四章 金庫制度

金庫ハ國庫金ノ出納保管ヲ取扱フ國家ノ機關ナリ

第一 金庫制度ノ種別

諸國ハ財政ノ統一主義ト相俟ツテ金庫事務ノ集中合一ニ努ム從テ本則トシテ合
 一金庫主義ヲ採ル

(一) 合一金庫制度 行政各部全般ノ出納ヲ總括スルヲ以テ原則トシ一系ノ金
 庫制度ヲ以テ一切ノ出納保管ヲ執行スルモノナリ

(二) 行政金庫制度 特殊行政ニ關スル收支ヲ取扱フ爲ニ特別ノ金庫ヲ設クル
 モノナリ企業行政ニ多シ

(三) 官廳金庫制度 各官廳毎ニ一系ノ金庫制度ヲ設クルモノニシテ各官廳ハ
 其所管ノ收支ニ關シ各自獨立シテ出納ヲ取扱フモノナリ

第二 預金組織ト保管組織

金庫ハ系統的ニ最高中級下級ノ金庫互ニ連絡ヲ取り國庫金ノ運轉出納上不便ナ

金庫制度ノ種別

第五編 財務論 第四章 金庫制度

カラシムルヲ期スヘク此目的ヲ一層有效ナラシムル爲ニ國庫金出納ノ事務ヲ一大中央銀行ヲシテ取扱ハシムルヲ常トス而シテ中央銀行カ國庫金ヲ取扱フ上ニ預金組織保管組織ノ問題ヲ生ス

預金組織保管

(一) 意義 預金組織ヲ以テ中央銀行ヲシテ國庫金ヲ取扱ハシムルトキハ國庫金ハ恰モ普通ノ資金ト同シク中央銀行ニ預ケ入レラルルモノナリ而シテ銀行ハ國庫全收支ノ現況及將來ニ鑑ミ其一部ヲ支拂準備金トシテ手許ニ存置シ國庫ノ支拂命令ニ應シ他ノ部分ハ營業資金ニ繰入レテ金融市場ニ融通スルモノトス反之保管組織ニ於テハ中央銀行ハ單ニ國庫ニ代リテ收支事務ヲ取扱ニ止マリ國庫金ヲ市場ニ融通スルコトナシ

(二) 得失 預金組織ニ依リテ國庫金ヲ運用スルトキハ國庫ノ爲ニ資金ノ需給關係ヲ素スコトナシ假令金融繁忙ノ季節ニ重要ナル租稅ノ納入ヲ行フトモ中央銀行ハ之ニヨリ營業資金ヲ増加シ從テ割引又ハ貸付ニ應スルヲ得以テ國庫金徵收ノ爲メ金融ノ逼迫ヲ來サラシムヘシ反之保管組織ノ金庫制度ニアリテハ國庫金ノ金融市場ニ疏通スル途ヲ斷ツテ以テ國庫金ノ保管ヲ安全ニスルヲ得ト雖モ一旦租稅其他ノ收入トシテ金庫ニ入り來レル資金ハ其ノ支拂ナキ以上金融市場ニ出ツルコトナク從テ一國ノ金融上竝ニ產業上不利タルヲ免

我國金庫制

レサルヘシ
第三 我國ノ金庫制度

會計法ニヨレハ其合一金庫制度ヲ採用セルコト明ナリ即チ第四條ニ各官廳ニ於テハ法律又ハ命令ヲ以テ規定シタルモノノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ストシ第一二條第二項ニ國務大臣ハ其保管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ストシ第一三條ニ國務大臣ハ其所管定額ヲ使用スルタメ金庫ニ向テ支拂命令ヲ發スヘシトシタルカ如キ是ナリ而シテ金庫ニ關スル事務ハ會計法第三一條ニヨリ日本銀行ニ之ヲ命シタレトモ尙保管組織ヲ採用セリ唯僅ニ國庫金一時貸借ノ制ヲ立テテ其缺所ヲ補ハントセルニ過キス

第五章 歲計ノ監督

- 第一 歲計監督ノ目的
 - (一) 財務行政全般ニ關シ豫算及法令ニ準據シテ歲計ハ施行セラレアリヤ否ヤヲ検査監督ス
 - (二) 實際ノ計算ノ誤ヲ正シ違法ノ收支ニ對シ制裁ヲ加フ
- 第二 監督諸制度

監計ノ

- (一) 金庫検査 金庫ニ付キ現金及有價證券ノ出納保管ヲ検査スルコトヲ要ス
- (二) 計算監督 金庫責任者タル金庫出納役(日本銀行總裁)又ハ現金出納ノ職權ヲ有スル出納官吏ニ對スル監督ニシテ現金ノ出納ニ關シ其執行力豫算及法令ニ違反スルコトナキヤヲ監督シ國庫ノ損失カ金庫出納役又ハ出納官吏ノ責ニ歸スヘキ場合ニ於テハ之カ辨償ヲ爲サシメ又其責任ヲ了シタル場合ニ之カ解除ヲ爲ス通常會計検査院ノ行フ所ナリ
- (三) 行政監督 事前監督ト事後監督トアリ前者ハ財務命令ヲ金庫ニ送付スル前ニ其合法及當否ヲ検査シ之ニ證認ヲ與フルモノニシテ事後監督ハ財務命令カ果シテ法令及豫算上ノ制限ニ適ヘルヤ否ヤヲ検査監督シ會計検査院之ヲ行フ
- (四) 國家監督 一國財務行政ノ責任者ニ對シテ行ハルルモノニシテ財務ノ執行カ法令又ハ豫算ヲ遵奉セルヤ否ヤノ責任ヲ糺スニ在リ此監督權ハ君主又ハ議會ニ存ス其ノ準備的機關トシテ會計検査院之ニ當ル

第六章 決算

「決算トハ豫算ニ對スル實際ノ收支ノ結果ヲ謂フ決算ハ豫算ト同一様式ニ依リ豫

算實行ノ成績ヲ明晰ニシ議會ノ事後監督ニ資スルモノトス我會計法ニ於テハ豫算ニ掲クヘキ事項ヲ左ノ如ク定ム即チ

- (一) 歳入ノ部ニハ
 - (1) 歳入豫算額
 - (2) 調定済額
 - (3) 收入済額
 - (4) 收入未済額
- (二) 支出ノ部ニハ
 - (1) 支出豫算額
 - (2) 豫算決定後増加額
 - (3) 支拂命令済額
 - (4) 翌年度繰越額

右ニ付キ毎年度收入調定済額ニシテ其年度整理期間内ニ收入ヲ了セサルモノハ收入未済額トシテ之ヲ翌年度ニ繰越シ而シテ其繰越額ヲ翌年度ニ至リテ收入ヲ了セルモノハ翌年度ノ收入トシテ計算シ同年度ノ算入調定済額及收入済額ニ併算スルモ翌年度内ニ尙ホ收入未了ノモノハ之ヲ後年度ニ繰越シ整理ス歳出ニ在

決算

リテハ今會計法ニ豫算定額ノ繰越ナルモノヲ認ム此繰越額ハ決算上ノ豫算決定
後増加額又ハ前年度繰越額中ニ表ハル

財政學要覽 終

財政學高等試驗問題

行政科

- 行政大元
 - 一、保護關稅ト財政關稅トノ差別ヲ論ス
 - 二、租稅ノ生産及國富ノ増殖上ニ及ホス影響ヲ論ス
- 行政大二
 - 一、消費稅ト生産及社會政策トノ關係ヲ論ス
 - 二、外國債ヲ論ス
- 行政大三
 - 一、累進稅ノ根據ヲ問フ
 - 二、公債償還基金（減債基金）ヲ設クル可否ヲ論セヨ
- 行政大四
 - 一、國庫剩餘金處分法ヲ論ス

財政學高等試驗問題

行政大五

- 行政大五
 - 一、租稅ハ經費膨脹ニ應シ之レヲ増シ得ルヤ
 - 二、豫算ノ種類及其特徵ヲ論ス
- 行政大七
 - 一、國庫事務ト金庫事務トヲ論ス
 - 二、公債ハ國民經濟ト有機的關係ヲ有スルモノナリヤ
- 行政大八
 - 一、公債ノ民衆化トハ何ソヤ
 - 二、物價ノ騰貴ハ財政上ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤ
- 行政大九
 - 一、改正所得稅法ヲ論評スヘシ
 - 二、經濟界ノ動搖カ國債政策ニ及ホス影響ヲ論スヘシ
- 行政大〇
 - 一、我國ニ於ケル直接稅ノ體系ヲ論

スヘシ

二、公債政策ト社會政策トノ關係ヲ論スヘシ

行改二

一、中央費ト地方費トノ區別ヲ明ニシ其相互ノ關係ニ論及スヘシ

二、借修重課ノ理由及方法ヲ問フ

行大三

一、帝國鐵道特別會計ヲ論シテ其他ノ特別會計並ニ一般會計トノ關係ニ及フヘシ

二、法人所得ノ課稅ヲ論シテ我現行稅制ニ及フヘシ

行大三

一、我國ノ國稅體系ヲ論ス

二、減債基金制度ヲ論ス

行大四

一、財政所得重課理由並ニ方法ヲ論ス

二、國庫剩餘金ノ處分ヲ論スヘシ

一、專賣制度ヲ論スヘシ

行改二

二、所得稅ノ缺點ヲ論スヘシ

一、地租移讓ヲ論ス

行昭二

二、公債ノ借替ヲ論ス

一、物價政策トシテノ國債政策ヲ論スヘシ

行昭三

二、我國ノ所得稅ヲ論スヘシ

一、地方稅ニ於ケル附加稅主義ト特別主義トヲ論スヘシ

行昭四

二、金輸出解禁ノ財政上ニ及ホス影響ヲ問フ

一、法人ヨリノ配當金ノ所得稅ニ於ケル綜合課稅ヲ源泉課稅ニ改ムル

行昭五

ノ可否如何

二、非募債主義ハ如何ナル場合ニ妥當ナリヤ

外交科

外交元

一、一國ノ直接稅ハ如何ナル種類ヲ以テ組織スルヲ適當トスヘキヤ

二、經常及臨時歲出入ノ區別ノ豫算上ニ於ケル效用及弊害ヲ論ス

一、鐵道國有ノ財政上ノ論據ヲ問フ

外交二

二、手数料ノ根據ヲ説明スヘシ

一、租稅轉嫁ノ法則ヲ略論スヘシ

外交三

二、國庫ノ剩餘金ヲ以テ特ニ基金ヲ設置スルノ可否ヲ論ス

一、相續稅ハ直接稅ナリヤ將タ間接稅ナリヤ

外交四

二、現行所得稅ノ改正ヲ論ス

財政學高等試驗問題

外交五

一、公債及租稅ノ負擔ノ異ナル所以ヲ論スヘシ

二、事業繰延及事業繰延費ノ利害得失ヲ論スヘシ

外交六

一、官業及官有財產ハ整理減少スヘキモノナリヤ且其趨向ヲ論ス

二、專賣品ノ價格ノ由テ定ムル所以ヲ論ス

外交七

一、歐洲戰爭ニ伴ヒ我國ノ採レル財政政策ヲ叙述論評スヘシ

二、金庫組織ノ得失ヲ論スヘシ

外交八

一、外債ノ利害ヲ論スヘシ

二、預金制度ト金庫制度トノ得失ヲ比較論評スヘシ

外交九

一、公債發行及償還ノ經濟界ニ及ホ

ス影響ヲ論スヘシ

二、政府專賣ノ利害ヲ論スヘシ

一、財政ト國民經濟トノ關係ヲ論ス

二、重複課稅ヲ論ス

一、現行所得稅制度ヲ論評スヘシ

二、公債政策ト物價トノ關係ヲ論ス

ヘシ

大三
外交

一、民間事業ニ對スル國庫補助(獎勵)金ノ制度ヲ論シテ我現行制度

ニ付知ル所ヲ記セ

二、財産所得重課ノ根據並ニ方法ヲ

論スヘシ

大三
外交

一、我國ノ消費稅(國稅)制度ヲ論

スヘシ

二、通貨ノ膨脹 Inflation ニヨル

大三
外交

課稅ノ利益ヲ論スヘシ

一、現行所得稅制度ノ改正ヲ論スヘシ

二、輸入防遏手段トシテノ關稅ヲ論

スヘシ

大三
外交

一、所得稅收益稅兩者ノ差異並ニ長短ヲ論スヘシ

二、公債累積ノ原因並ニ其ノ對策ヲ

論スヘシ

昭二
外交

一、公債累積ノ原因ト之カ對策ヲ論

スヘシ

二、關稅ニヨル保護政策ト補助金ト

ノ利害得失ヲ論スヘシ

昭三
外交

一、我國地方財政ノ膨脹ヲ論スヘシ

二、我國ノ消費稅ヲ論スヘシ

昭四
外交

一、我國債ノ整理ヲ論スヘシ

二、財政ノ緊縮政策ヲ論ス

一、資本利子稅増徴ノ可否ヲ問フ

二、減債基金設置ノ理由並ニ其方法

如何

昭五
外交

財政學各大學試驗問題

第一編 總論

- 一、財政ト金融トノ關係ヲ論ス (大一三、東、土方)
- 一、財政ノ目的ヲ述ヘヨ (大一、京、神戸)
- 一、財政ト産業政策トノ關係ヲ論スヘシ (大一五、中、大竹)
- 一、財政ヨリ見タル失業問題ヲ論スヘシ (大一四、東、土方)
- 一、財政ノ特質ヲ論ス (昭四、明、北崎)
- 一、不景氣及恐慌カ財政ニ及ホス影響並ニ之ニ對スル方策如何 (大元、京、神戸)
- 一、生産及社會政策ト財政政策トノ關係如何 (大元、京、神戸)

何(大元、京、神戸)

- 一、物價騰貴ハ財政上ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤ (大一、中、馬場)
- 一、財政ノ機能ヲ論ス (昭三、明、松井)
- 一、營利經濟社會ニ於ケル財政ノ特質 (昭二、明、松井)
- 一、アダム、スミスノ財政論ハ今日ニ通用スルカセヌカトノ點ヲ明カニセヨ (大一五、東、大内)
- 一、財政問題ニ關シテ經濟的社會的見地ニ對立スル見地トシテ財政的見地ナルモノカアルカ モシアリトスレハ如何ナル見地デアルカ (昭四、東、大内)
- 一、財政學ト經濟學トノ關係ヲ論ス (昭二、東、大内)

- 一、財政ニ關スル立意主義ノ理想如何ソノ現代ニ於ケル實現ノ狀況ヲ論定セヨ (昭五、東、大内)
- 一、財政ノ國民經濟ニ加フル壓迫ノ意義ヲ明ニシテ其ノ内容ヲ詳述スヘシ (昭五、京、土方)

第二編 經費論

第一章 總論

- 一、國家職能ト經費トノ關係 (昭二、明、松井)
- 一、國家ノ經費ヲ經濟的價值判斷ニノミ委シ得ルヤ (昭三、明、松井)
- 一、國家經費ノ原則如何 (昭二、關、西)

財政學各大學試驗問題

第二章 經費ノ原則

- 一、經費ノ原則ヲ論スヘシ (昭二、日、小川)

第三章 經費ノ組織

- 一、國防費ノ財政上ニ於ケル意義ヲ問フ (大一四、日、小川)
- 一、軍事費ニ付テ論スヘシ (昭三、中、太田)
- 一、軍事費ノ財政上ニ於ケル地位ヲ説明スヘシ (昭四、東、大内)
- 一、我國ニ於ケル各省別經費ヲ分類説明シソノ中不生産的經費ヲ指摘セヨ (昭三、東、大内)
- 一、軍備制限ノ財政惹イテ國民經濟ニ及ホス影響ヲ論スヘシ (昭五、東、土方)

一、國防費ヲ論ス(昭五、明、北崎)

第四章 經費ノ物體

一、人件費ト物件費トノ區別(大一四、明、小林)

第五章 經費ノ限定

一、經常費及臨時費ノ意義ヲ説明スヘシ(昭五、明、北崎)

一、經常費臨時費ノ別(昭四、明、松井、昭五、京、汐見)

一、我國ノ財政上ニ於ケル經常及臨時費出ノ影響ヲ論シ、且將來改正スルノ必要アルヤ否ヲ論スヘシ(大二、東、松崎)

一、經常費臨時費ノ區別ヲ明ニシ且各二種

以上ノ例ヲ舉クヘシ(大一〇、中、馬場)

一、經常費臨時費ノ區別ヲ明ニシソノ支辨方法ヲ論セヨ(大一三、京、小川)

第六章 經費支辨方法

一、經費支辨ノ原則ヲ説明スヘシ(大四、中、馬場)

一、左記命題ノ文意ヲ説明シ且ツ之レヲ批判スヘシ(大三、中、馬場)

(イ)經常費ハ經常收入ヲ以テ支辨スヘシ(ロ)舊稅ハ良稅ナリ

一、經費不足ニ對スル支辨方法如何(大一五、京、神戶)

一、治水費支辨方法ヲ問フ(大四、京、小川)

第七章 經費膨脹ノ法則

一、我國ニ於ケル經費膨脹ノ趨勢ヲ論スヘシ(昭二、東、土方)

一、國費ノ膨脹ノ内容ヲ檢討シソノ原因ヲ明ニスヘシ(昭四、東、土方)

一、經費ノ膨脹ハ國民ノ負擔ヲ增加スルヤ(大一二、東、土方)

一、我國ニ於ケル恩給費増加ノ趨勢ト之カ防止策トヲ論スヘシ(昭二、東、土方)

一、地方費ノ膨脹ノ内容ヲ檢討シソノ原因ヲ明ニスヘシ(昭四、東、土方)

一、近世國家ニ於ケル經費膨脹ノ原因(昭四、京、汐見)

一、經費膨脹ノ一般的原因(昭五、明、北崎)

第三編 收入論

第一章 收入ノ意義及分類

一、經常收入ノ分類ヲ論スヘシ(四二、法、下村)

一、收益的收入ノ種別ヲ問フ(大一四、明、小林)

一、歳入トハ何ソ且ツ之ヲ分類スヘシ(四三、專、松崎)

一、個人國民及團體經濟ノ各自ニ根底セル收入トハ何ソ(大二、東、松崎)

一、國家ノ私經濟的收入ノ利害ヲ概説スヘシ(大三、東、高野、大七、東、松崎)

一、財源ノ選擇ニ關スル經濟上ノ原則ヲ説

- ケ(大三、東、高野)
- 一、公賦的收入ノ意義及其内容ヲ問フ(昭五、明、北崎)
- 一、國家ノ收入手段ノ發達ヲ敘ス可シ(大一三、日、泉)
- 一、經濟ノ種類ニ從ヒ歷史的ニ團體經濟ノ財源ヲ説明セヨ(大五、東、松崎)
- 一、公共ノ入ヲ公經濟的及ヒ私經濟的ニ分類スル學說 批評スヘシ(昭五、明、北崎)

第二章 租稅論

第一節 租稅總論

第一款 租稅ノ觀念

- 一、租稅ノ本源ヲ説明ス(大一三、明、小林)

- 一、一國ノ租稅制度ハ如何ニ構成セラルヘキカ(大一四、關)
- 一、租稅ノ社會政策的目的ヲ論スヘシ(昭三、東、土方)
- 一、租稅ニ於ケル強制ノ意義(昭四、明、松井)
- 一、租稅ノ目的ヲ論ス(大二、東、松崎)
- 一、租稅ノ分類中重要ナルモノニ就キ説明セヨ(大一五、明、北崎)
- 一、稅本ト稅源トノ差異ヲ問フ(大一五、專修、小林)
- 一、直接稅ト間接稅トノ利害ヲ論ス(昭二、明、小林)
- 一、我國地方稅制度ヲ論スヘシ(昭二、東、土方)

- 一、益金公課徵稅トハ何ソ(大二、東、松崎)
- 一、我國現行稅制上商品及ヒ其實質取引ニ課セラレル租稅ノ種類ヲ舉ケ其財政經濟社會ニ於ケル意義ヲ説明スヘシ(昭四、東、大内)

- 一、租稅ノ根據ニ關スル學說ヲ説明シソレヨリシテ租稅ノ公平ヲ實現スル方法ヲ詳述セヨ(昭五、東、大内)
- 一、目的稅ノ意義ヲ示シ其ノ實例ヲ舉ケテ之ヲ評セヨ(大一二、京、神戸)
- 一、租稅ト企業集中トノ關係ヲ論スヘシ(昭五、東、土方)

第二款 租稅ノ原則

- 一、租稅ニ關スル「正義ノ原則」ノ意義ヲ

- 一、說明スヘシ(大一三、中、太田)
- 一、租稅ニヨル社會政策トハ何ソヤ所謂公平ナ租稅ハ即社會政策的租稅ニ非サルカ(大一五、東、大内)
- 一、最低生活費ノ課稅免除ヲ論スヘシ(大一五、東、土方)
- 一、如何ナル條件カ成就スレハ一定ノ租稅制度社會政策的タルト云ヘルカ(大一五、東、大内)
- 一、租稅ノ公平觀念ノ推移ヲ論シ之ト經濟社會ノ變遷ノ關係ヲ説明スヘシ(昭四、東、土方)
- 一、社會正義ニ依ル課稅ノ原則ヲ説明スヘシ(昭二、明、北崎)
- 一、租稅ノ分配原則ノ大要(大一〇、京、神

- 一、租稅ノ經濟的原則ヲ説明スヘシ(昭五、日、駒井)

第三款 比例稅ト累進稅

- 一、累進稅ト比例稅トノ利害得失ヲ論スヘシ(昭二、東、土方)
- 一、給付能力ニ應スヘキ課稅ノ方法ヲ舉ケテ之ヲ簡單ニ説明スヘシ(昭三、中、岩野)
- 一、課稅標準(大一四、關)
- 一、累進稅(昭三、早、阿部。昭三、中、太田)
- 一、超過累進率トハ何ソ且其學理上ノ根底ヲ説明スヘシ(大九、中、馬場)
- 一、累進稅ノ根據ヲ問フ(大五、法、金井)
- 一、稅源 租稅ノ給付能力及課稅標準ノ關

- 一、係ヲ説明セヨ(大一三、日、泉)
- 一、累進稅ノ理由及課稅方法ヲ説明スヘシ(大一五、明、北崎)
- 一、累進稅ノ變遷ヲ述ヘ之ト資本主義經濟ノ變遷トノ關係ヲ説明セヨ(昭四、東、土方)
- 一、比例稅ノ長所ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ(昭五、京、神戸)

第四款 租稅ノ歸著

- 一、租稅ノ前轉(大一五、中、馬場)
- 一、租稅ノ轉嫁トハ何ソヤ(大一四、京、小川。昭五、東、大内)
- 一、租稅轉嫁ノ種類ヲ問フ(大七、東、松崎)
- 一、課稅物件ノ需要供給ノ伸縮性ト擔稅轉

嫁ノ關係如何(昭四、關、森下)

- 一、消費稅ノ轉嫁ヲ論ス(大三、東、工藤)
- 一、租稅轉嫁ノ行ハレ易スキ場合ヲ説明セヨ(大三、東、高橋)
- 一、現時吾邦ニ於ケル國民負擔ハ公正ヲ得タルモノナリヤ如何(大一四、中、馬場)
- 一、需要供給ノ彈力性ト租稅轉嫁ノ關係ヲ説明セヨ(昭二、關西)
- 一、我國租稅ニ於ケル財產重課ノ實例(昭四、京、沙見)
- 一、轉嫁スル租稅ト轉嫁セサル租稅トヲ問フ(四三、大七、東、松崎)

第五款 租稅體系

- 一、我が國稅體系ノ整理ヲ論スヘシ(昭四、財政學各大學試驗問題)

東、土方

- 一、我國稅制ノ大要ヲ述ヘ其整理策ニ論及ス可シ(大一〇、京、小川)
- 一、我國ノ國稅制度ト地方稅制度(昭五、京、沙見)

第二節 租稅各論

第一款 所得稅

- 一、本邦ノ所得稅ヲ論ス(昭二、東、大内)
- 一、所得稅ト收益稅トノ差異長短ヲ論スヘシ(昭二、東、土方)
- 一、一般所得稅ノ特質ヲ問フ(大一〇、中、馬場。昭三、明、北崎)
- 一、所得ノ本質ヨリ綜合統一所得稅ノ可能

- ニ及フ(昭二、東、松井)
- 一、所得稅ノ短所(大、一四、京、神戸)
- 一、本邦ニ於ケル法人ノ所得稅ヲ論評スヘシ(大、一、二、昭二、東、土方)
- 一、綜合課稅ト源泉課稅トノ利害得失ヲ論ス(大、一、五、東、土方)
- 一、所得稅ニ於テハ最低課稅額ヲ設ケ收益稅ニ於テハ之ヲ設ケサル理由如何(大、二、東、松崎)
- 一、所得稅ハ惡稅ナリヤ(昭二、關西)
- 一、所得稅ノ課稅標準額ニ控除ヲ爲スノ理由ヲ說述スヘシ(大、一、五、專修、北崎)
- 一、資産所得ト勤勞所得トハ課稅上區別スヘキヤ(大、八、日、場)
- 一、我國現行所得稅制度ノ改正ヲ論スヘシ

- (大、一、四、東、土方)
- 第二款 收益稅
- 一、收益收入ト分賦收入トノ別ヲ問フ(昭三、明、小林)
- 一、一般所得稅ノ外ニ收益稅ヲ課スルノ制度ノ可否及ヒソノ理由ヲ論セヨ(大、一、三、京、小川)
- 一、財産收益稅ト財産流通稅トヲ比較論評セヨ(昭二、明、北崎)
- 一、地租ノ地方委讓(昭三、早、阿部。昭三、京、神戸)
- 一、小土地所有者ニ地租ヲ免除スルノ可否ヲ論ス(大、三、東、工藤)
- 一、地租ノ客體ヲ論ス(大、四、東、松崎)

- 一、地租稅率ノ増減カ地價ニ及ホス影響(昭四、京、沙見)
- 一、稅源トシテノ土地ノ性質ヲ說明シソレニ關スル租稅制度ヲ說明セヨ(昭四、東、大内)
- 一、財政上ニ於ケル地方分讓トハ何テアルカ例ヘハ現代我國ニ於テ地租ヲ委讓スルコトハ地方分讓的テアルカ(昭四、東、大内)
- 一、現行營業稅ノ論評(大、一、三、東、馬場)
- 一、營業稅ノ課稅標準トシテ收益ト營業資本金額ノ優劣ヲ論ス(大、一、五、東、土方)
- 一、營業稅ハ之レヲ廢スヘキカ(大、三、京、小川)
- 一、營業稅ノ課稅標準ヲ論ス(昭五、京、沙見)

- 一、資本利子稅トハ何ソヤ(大、一、五、專修、北崎)
- 第三款 財産稅
- 一、財産稅ヲ論ス(大、一、五、明、北崎)
- 一、財産ヲ稅源トスルコトノ可否ヲ論スヘシ(大、一、五、昭二、東、土方)
- 第四款 交通稅
- 一、交通稅ノ特徴ヲ說クヘシ(大、四、東、大七、日、工藤)
- 一、吾邦ノ通行稅制度ヲ論評スヘシ(大、六、中、馬場)
- 一、印紙稅賦課方法(大、一、四、京、神戸)
- 一、財産相續制度並相續稅ヲ論スヘシ(大、三、東、土方)

- 一、相續稅ヲ批評スヘシ(大一二、京、神戸)
- 一、我國現行相續稅ヲ批評スヘシ(昭三、早、阿部)
- 一、相續稅ノ累進課稅ノ根擧ヲ説明スヘシ(昭五、東、土方)

第五款 消費稅

- 一、我國消費稅系統ヲ論評セヨ(昭二、早、阿部)
- 一、我消費稅制度ノ整理ヲ論スヘシ(昭四、東、土方)
- 一、消費稅ノ課稅方法ヲ論ス(昭二、東北、神戸)
- 一、消費稅ノ得失ヲ説明セヨ(昭一五、京、神戸)

第三章 私經濟的收入

第一節 總論

- 一、官業ノ長短ヲ論ス(昭二、東北、神戸)
- 一、商業官營ノ利害及其範圍ヲ論ス(大一一、五、專修)
- 一、我國ノ官業ハ整理スヘキカ(大一一、

京、小川)

- 一、官業及官有財產ノ收入ヲ論ス(大二、東、松崎)
- 一、造幣官業ノ理由ヲ問フ(大一一四、昭三、明、小林)
- 一、收益主義官業ヲ擴張スルノ是非如何(昭四、關、森下)

第二節 官有財產收入

- 一、動產收入ニ就テ説明スヘシ(大三、法、金井)
- 一、國有地拂下ノ可否ヲ論ス(大三、東、高野)
- 一、國有山林ノ收入ハ歲入中如何ナル種類ニ屬スルヤ且其管理方法ヲ説明スヘシ

財政學各大學試驗問題

(四一、東)

第三節 官業收入

- 一、左ノ事業ノ一ヲ選ヒ其財政上ノ地位ヲ説明スヘシ(四三、法、下村)
- 一、(一)官營貯金業(二)官營採鐵
- 一、酒ノ專賣ヲ論セヨ(大一一、京、神戸)
- 一、鐵道國有ノ可否ヲ述ヘ吾國ノ實例ニ付論及スヘシ(四一、法、下村)
- 一、印紙富籤官有鐵道ノ益金ト間接稅ノ收入トノ異同ヲ説明スヘシ(大五、東、松崎)
- 一、我國ノ富籤官營ニ就テ述ヘヨ(大一一五、明、北崎)

第四章 政務收入

第一節 手數料

- 一、手数料ノ性質ヲ説明シ其ノ租税ト異ナル點ニ論及スヘシ(大一三、中、太田)
- 一、手数料ノ原則ヲ説明ス(大一三、明、小林)

- 一、手数料ト交通税トノ區別ヲ問フ(大二京、小川)

- 一、租税、手数料、使用料、特別課徴ノ異同(大三、明、松井。大三、中、太田)

第二節 使用料及特別課徴

- 一、手数料使用料收益者負擔金租税ノ異同ヲ辯スヘシ(昭二、日、小川)

第五章 非經濟的收入

第四編 公債論

第一章 總論

- 一、公債ト租税トノ國民經濟ニ及ホス影響ノ差異ニツキ述ヘヨ(昭三、早、阿部)

- 一、租税、公債、官業收入、三者相互ノ關係ヲ論スヘシ(大四、東、土方)

- 一、軍費ハ租税ニ頼ルヘキヤ將タ公債ニ頼ルヘキモノナリヤ(大七、東、松崎)

- 一、戰時公債ヲ論スヘシ(大四、東、工藤)
- 一、眞正不足ト金庫不足トノ比較(昭四、京、汐見)

第二章 公債ノ意義

- 一、公債ノ意義ヲ問フ(昭三、明、小林)

- 一、公債募集(發行)カ金融市場ニ及ホス影響ヲ論スヘシ(昭三、東、土方)

- 一、現代佛國ノ財政ニ於ケル公債ノ地位ヲ明カニシ其ノ例ヲ以テ公債ト經濟及社會トノ關係ヲ明カニセヨ(大一五、明、大内)

- 一、公債募集ノ爲替相場ニ及ホス影響ヲ論スヘシ(大一四、明、土方)

- 一、公債募集ノ金利ニ及ホス影響(大一五明、土方)

- 一、公債發行ハ通貨膨脹ヲ惹起スルカ(昭三、中、岩野)

- 一、左ノ二問中一問ヲ撰フヘシ(大四、明、土方)

- (イ)公債ノ發行ト物價トノ關係ヲ論スヘシ

シ

- (ロ)公債ノ發行ト爲替相場トノ關係ヲ論スヘシ

- 一、公債累積ト資本主義經濟組織トノ關係ヲ論スヘシ(大四、明、土方)

- 一、公債累積カ金利、産業、輸出入貿易ニ及ホス影響ヲ論セヨ(大五、明、土方)

第三章 公債ノ種類

- 一、公債ノ種別ヲ説述スヘシ(四一、法、下村)

- 一、隨時拂公債(大一五、中、馬場)

- 一、利息公債ノ利害ヲ論ス(昭三、明、小林)

- 一、外國債及内國債ヲ論ス(大元、東、松崎)

第四章 起債

- 一、國債ヲ起スニ付特ニ留意スヘキ事項ヲ舉ケテ之レカ理由ヲ説明スヘシ (大五、中、馬場)

第五章 公債ノ管理及償還

- 一、公債借換ヲ説明スヘシ (大一二、京、神戸)
- 一、我國ノ減債 (國債整理) 基金制度ヲ論評スヘシ (大二三、東、土方)
- 一、減債基金制度 (昭二、早、阿部)
- 一、國庫剩餘金ノ處分トシテノ減債基金繰入ヲ論スヘシ (昭四、東、土方)
- 一、公債ノ市價ヲ維持増進スル方策如何

(大二三、大九、中、馬場)

- 一、國債ノ買上償還ハ金融ノ調節ニ如何ナル效果アリヤ (四四、中、馬場)

- 一、公債募集ノ金融ニ及ホス影響ヲ論ス (昭二、東、大内)

- 一、獨逸ニ於ケル國債償還ノ制度ヲ説明スヘシ (昭四、東、工藤)

- 一、外債ヲ起シテ内債ヲ償還スルノ當否如何 (四三、京、神戸)

- 一、公債市價騰落ノ原因 (大一一、中、馬場)

- 一、基金制度及之レヲ設クル可否ヲ論ス (大五、東、松崎)

第五編 財務論

第一章 總論

- 一、財政ノ組織及機關ヲ論ス (四四、東、松崎)
- 一、本邦豫算制度ノ改善ヲナスト假定シテ如何ナル點ヲ如何ニ改ムヘキテアルカラ考案セヨ (大一一、東、大内)

東、大内)

- 一、左ノ語ニツイテ簡單ナル説明ヲナスヘシ (大一一、中、大竹)

- (イ) 第二豫備金 (ロ) 借換 (ハ) 租稅ノ轉嫁 (ニ) 歳出

- 一、豫算ト歳計トノ差異ヲ述ヘヨ (大五、日、小林)

- 一、豫算見積方法ノ大要 (大一一〇、京、神戸)

- 一、豫算ノ科目ノ流用トハ何ソヤ (四三、中、馬場)

- 一、豫算ハ何故ニ歳計ノ要具ナリヤ (四三、明、馬場)

- 一、議會ノ豫算議定權ノ發達ヲ論ス (昭二、東、大内)

- 一、實行豫算ヲ以テ豫算ノ款項ヲ節約 (專

第二章 豫算

- 一、豫算ノ意義ヲ説明セヨ (昭四、明、北崎)
- 一、豫算ノ具備スヘキ要素ヲ説述セヨ (昭三、明、北崎)
- 一、毎年ノ豫算作成ニ於テ財源トナリ得ヘキモノヲ列舉シソノ選擇ニ關スル主義ヲ述ヘソノ政策的根據ヲ明カニセヨ (昭四

實ノ削除)スル事ノ理由又ハ是非ニ關シ
諸君ノ法律的政治的見解ヲ述ヘヨ(昭五、
東、大内)

第三章 歲計ノ執行

一、我豫算構成法ハ何故ニ歳出ヲ膨脹セシ
ムル傾向アリト云フヤ(大二、東、松崎)

第四章 金庫制度

第五章 歲計ノ監督

第六章 決算

財政學試驗問題終

昭和六年四月十日印刷
昭和六年四月十五日發行

財政法要覽奥付
定價金八拾錢

不許
複製

著者 普文學會

東京市神田區今川小路二丁目二番地
合資會社清水書店代表社員

右代表者 發行 葉多野太兵衛

東京市神田區今川小路二丁目一番地

印刷者 高梨知愛

發行所 清水書店

東京市神田區今川小路二丁目二番地

電話九段五七八番
振替貯金東京七八六二七番
合資會社

法律要覽叢書

普文學會編纂

改版大增補

◇ 法律要覽叢書

【全二十五冊完結】

法學書中唯一のハンドブックとして普遍的に愛讀せられつゝある吾
「法律要覽叢書」は内容全部の改版に際し十數年來の經驗と實踐に
徴して其缺點を補正し内容の充實を計り且系統的理理解を與へるに努
め試験委員や一流學說を隨所に参照して凡てを一目瞭然たらしめ更
に編者實際の體験より成る独自の拔萃表と最近十年間の高等試験問
題並各大學試験問題とを増補し裝幀の瀟灑、堅牢を計り從來のもの
に一大革新を加へて出現せる本書は必ずや充分の御期待に副ふこと
は信じて疑はざる所、敢て各位の御高讀を薦むる所以である。

錢四金冊各科送 ・ 錢拾八冊各 價定

法律要覽叢書

第一編

憲法要覽

第二編

行政法要覽 上卷

第三編

行政法要覽 下卷

第四編

刑法總論要覽

第五編

刑法各論要覽

錢四金冊各科送 ・ 錢拾八冊各 價定

法律要覽叢書

第六編 第七編 第八編 第九編 第十編

改訂刑事訴訟法要覽

民法總則要覽

物權法要覽

債權法總論要覽

債權法各論要覽

錢四金册各料送 · 錢拾八册各 價定

法律要覽叢書

第一編 第二編 第三編 第四編 第五編

親族相續法要覽

商法總則商行為要覽

手形法要覽

會社法要覽

保險海商法要覽

錢四金册各料送 · 錢拾八册各 價定

法律要覽叢書

- 第十
二編
 - 第九
編
 - 第八
編
 - 第七
編
 - 第六
編
- 經濟學要覽
 國際私法要覽
 國際公法要覽
 正改民事訴訟法要覽
 正改民事訴訟法要覽
- 卷下
卷上

錢四金册各料送 · 錢拾八册各 價定

法律要覽叢書

- 第五
編
 - 第四
編
 - 第三
編
 - 第二
編
 - 第一
編
- 法學通論要覽
 自治制要覽
 訂改破產法要覽
 警察法要覽
 財政學要覽

錢四金册各料送 · 錢拾八册各 價定

帝國公法大意

法學博士 清水澄著 價五・〇〇 送料・二七

憲法・行政法の根本理論を簡明に説述した最新著にして殊に普通選舉法を引照したるが如き、近來無比の好著として充分御期待に値しやう。

第一分冊 價二・五〇 送料・一八
第二分冊 價二・〇〇 送料・一八

改訂帝國憲法大意

法學博士 清水澄著 價一・八〇 送料・一八

極めて簡潔にして、又極めて端的、僅々二百五十頁の紙數裡に能く憲法及び行政法の要諦を説き盡したる獨歩の好著である。理想的なる國民法制教育の教科書として、恐らく此の兩書の右に出づるものは絶無であらう。兩書とも全部改訂出版

改訂日本行政法大意

法學博士 清水澄著 價一・八〇 送料・一八

刑法大意

法學博士 山岡萬之助著 價二・五〇 送料・一八

僅かに三百五十頁の小冊ながら内容頗る豊富、其端的簡明を極めた點は全く何者の匹儔をも許さない。遍く諸書を涉獵された最後にも亦本書の一讀が必要とせられやう。

物權法大意

前大審院長 横田秀雄著 價四・五〇 送料・二七

先づ概要のみを知らうと欲せらるゝ人々には切に本書をお薦めする。特に學生諸君の爲めに執筆されたもので他の廣本に較べて全く面目を異にした獨特の著作である。都下各大學に於て用ゐられつゝあるばかりでなく、全國各講習會の教材として又頗る需要が多い。

債權法大意

前大審院長 横田秀雄著 價五・〇〇 送料・二七

改訂國際法提要

法學博士 遠藤源六著 價四・八〇 送料・二七

此れはまた平明簡楚な行文裡に、能く國際法學の基礎概念を傳へて遺憾なきの好著。試験前五日に於ける本書の一讀は、優に二千頁の讀了よりも確實なる自信をもたらす

債權總論大要

前大審院長 磯谷幸次郎著 價四・五〇 送料・二七

本書の眞價は教科書及受験參考書たるにあれば債權法的一般概念に浸りて其要訣を把握せんとする人士は必ず本書に就かれよ。

訂正法學通論

慶大教授 小池隆一著 價三・〇〇 送料・二七

其立脚地を社會原理に置き、其背景を經濟思想に求め、而も之を貫くに明快なる歴史的考察を以てした本書は、新時代の希求する新法學通論として萬遺憾なきの好著作。

憲法政治の理論と實踐

法學博士 馬場鉄一著 價三・〇〇 送料・二七

所謂立憲政治といふものがどう言ふやうに動いたならば眞の立憲政治と稱し得るかといふやうな點を説述しやうとするのが即ち本書の目的であり綱要である。……著者の言葉より……

法律と道德

慶大教授 前原光雄譯 價二・〇〇 送料・一八

實踐的法理論の權威として世界に重きをなすロスコー・パウンド氏が原著、流麗なる譯文と相俟つて斯學に益する所多かるべし

刑事政策學大綱

法學士 鳥保著 價二・五〇 送料・一八

最近高等試験中の隨意科目に選定された刑事政策は斯界に類書寥寥たり。本書は貴下を満足せしむるの良師たり。著者は現に實際と講壇とに鍊磨精進せらるる篤學の士。

經濟學

帝大教授 河津 遺著 價三・〇〇 送料一・八〇

理解し易いといふ點に於て、手速く要領の
掴めると言ふ點に於て、正に萬人向の經濟
學讀本である。殆んど新聞記事に對するや
うな心安さの裡に讀了できる經濟學原論。

經濟政策要論

法學博士 渡邊鐵藏著 價二・五〇 送料一・八〇

筆を産業革命の由來に起して商工政策の全
豹を詳説し、更に労働問題を痛論して共產
主義社會主義の主張に鮮かな斷案を與へた
博士會心の著作。

改訂財政學

法學博士 馬場鏡一著 價二・五〇 送料一・八〇

辛辣な諷刺、軽いユーモア、而して之を貫
く流麗な筆致。さしも難解を極めた租稅論
や公債學說も常識の程度にまで一般化され
た絶好著。最新學說を録めた大増訂版出來

經濟統計

商大教授 藤本幸太郎著 價二・五〇 送料一・八〇

東西を通じて文献乏しき經濟統計學の其の
邦語を以て綴られたる最秀の著作。彼の物
價統計の如き、或は又消費統計の如き、本
書に於ては就中明確に詳述してゐる。

經濟史

帝大教授 河津 遺著 價二・八〇 送料一・八〇

生産營利生活及び消費生活の内的發展を攻
究し之に伴ふ經濟諸現象の間に存する因果
關係を遺憾なく明にし各時代に於ける發展
消長の經過竝に原因を縱横に批判した。

社會學

明大教授 赤神良讓著 價二・五〇 送料一・八〇

未だに社會學は何を研究する學問なりやと
言ふ疑問を挿むものさへある。之に鐵案哲
答を與へたものは本書であつて、何人にも
會得せしむるやう平易明快に論説した。

俗近代經濟叢書

帝大教授 河津 遺著 價三・〇〇 送料一・八〇

全十二卷・各冊金貳圓・送料各十八錢。
斯學の者宿河津博士の熱心なる御指導と著
者の眞摯なる御執筆の下に門外不出の經濟
學を街頭にまで引き下ろして民衆化の大蜂
火を擧げた。本書の内容は「誰にもわか
る」を主眼とし、難解に過ぎず又卑俗にも
墮せず一讀何人にも其核心を掴み得ること
は巷間得難き至寶であらう。

- 1 經濟原論
- 2 生産論
- 3 國際經濟論
- 4 交通論
- 5 物價論
- 6 金融論
- 7 恐慌論
- 8 取引所解説
- 9 財政概論
- 10 經濟史
- 11 經濟政策
- 12 社會政策

民法通論合本

法學士 中島弘道著 價八・五〇 送料三・六〇

其の立脚するところは從來諸名家に依つて
洗練累積され來つた民法學說中の定論であ
り、其の目的とするところは民法を總括し
ての統一的全面解説である。

民法總則物權法論

法學士 中島弘道著 價三・五〇 送料二・七〇

民法債權法論

法學士 中島弘道著 價三・五〇 送料二・七〇

民法親族相續法論

法學士 中島弘道著 價二・〇〇 送料二・七〇

「民法通論」は今回版を重ねるに當り切なる
讀者の懇意を容れて三卷に分冊し同時に重
要の部分は全面を通じて改訂され、茲に概
論民法の新しい教本として現はれたのが本
書である。

五年新 税法 清水書店 價・五〇
改 編 集 送料・〇二

納税の義務を負担する國民にして國家の税
法が如何に編制せられてゐるかを是非知ら
ねばならぬ。本書は昭和五年度版に於て内
容全部を訂正改版せるもの。必携を薦む。

正義の殿堂より 大審院判事 價四・二〇
大森洪太著 送料・二七

思漢の豊富と行文の流麗とを以て鳴る先生
が滯歐四箇年の「みやげ」として其の國の法
律、歴史、紀行、隨筆等蒐録して本書を爲
す雄篇十數章。

不思議な犯罪の話 大審院判事 價二・〇〇
大森洪太著 送料・一八

編中活躍するもの、巨怪の如き殺人鬼あり
疾風の如き名探偵あり、花の如き艶魔あり
水の如き悪漢ありて實に小説以上の歐米古
今の事實譚たる近來の快著

新編 民事訴訟法 元司 法局 價二・五〇
對照 鈴木玄之助著 送料・一八

本書一冊を手にして始めて始めて改正法の核心を
掴むことが出来るであらう。

民事訴訟法中 理由書 司法省 價一・五〇
改正法律彙編 編 集 送料・一八

民法教科書 普文學會 價四・五〇
編 集 送料・二七

民法全般に亘つて簡潔明瞭な系統的解釋を
加へた類の妙い著作である。試験準備の參
考書に、各講習會の教材に、或は手早く民
法の要領を掴まうとさるゝ諸彦の伴侶とし
て御購求を俟つ。

國民 民事法講話 法學 博士 價二・〇〇
池田寅二郎著 送料・一八

吾々民衆生活に關係深き新民事訴訟法を始
め破産法、和議法、民法、特に親族、相続
戸籍、商法、商事、小作調停法等各冊千頁
以上のものを極くわかりよく其大意を傳へ
たもの。

警察官史受験提要

普文學會編纂 四六版假綴 定價 金壹圓
紙數一八〇頁 送料 十八錢

巡査の 志大 願寶 者典
警視廳大阪府京都府に於て過去に行はれた試験問題を蒐
集し之れに標準解答を附して其勞力を減する様力めた事
が本書の有つ特色である。加之右三府下實際の受験手續
や出題された多數の問題を蒐録して攻學に便した。

清水の

昭和五年版

文官普通及

裁判所書記

試験問題答案集

普文學會編纂

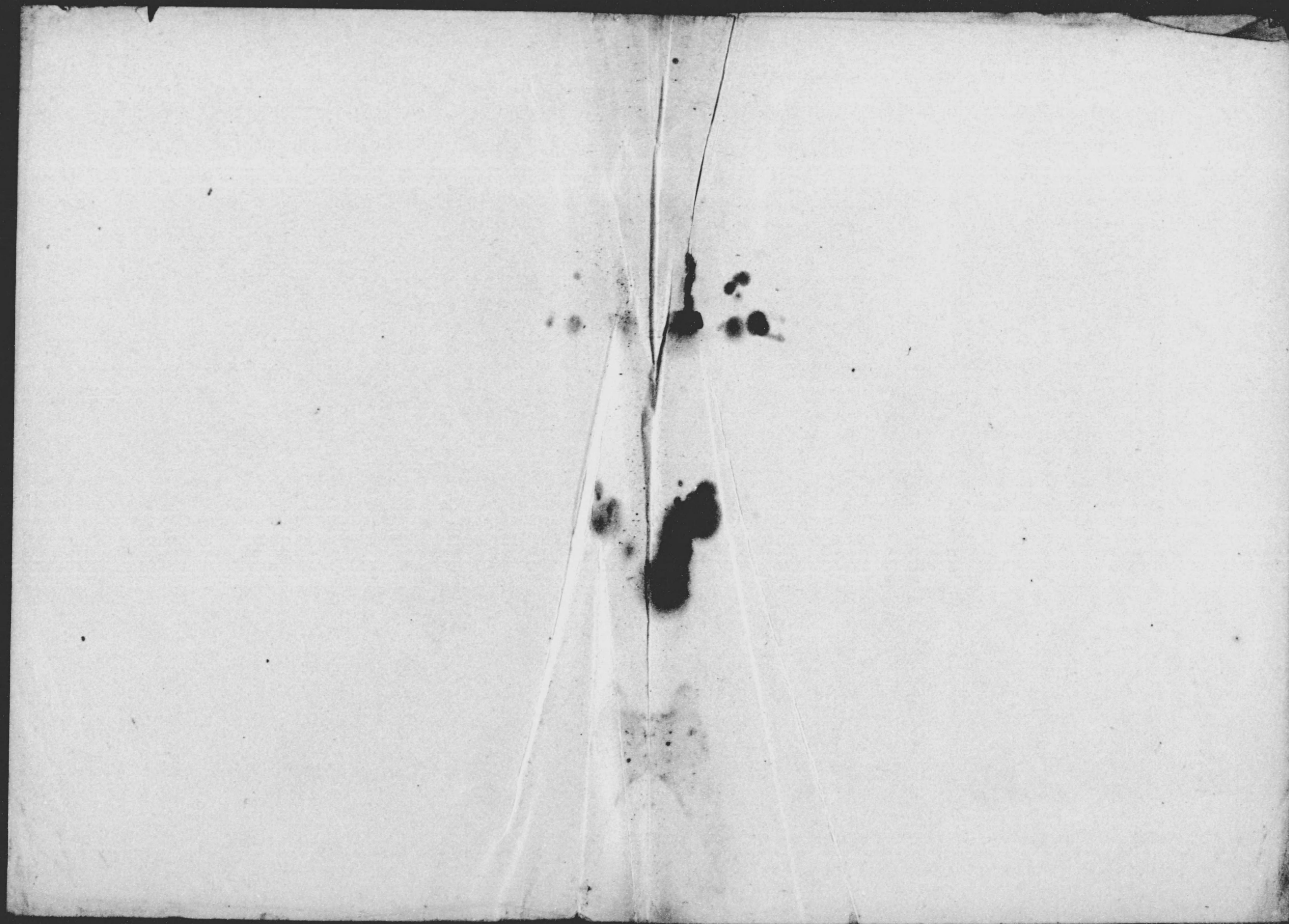
美版擬革上製
紙數九百頁

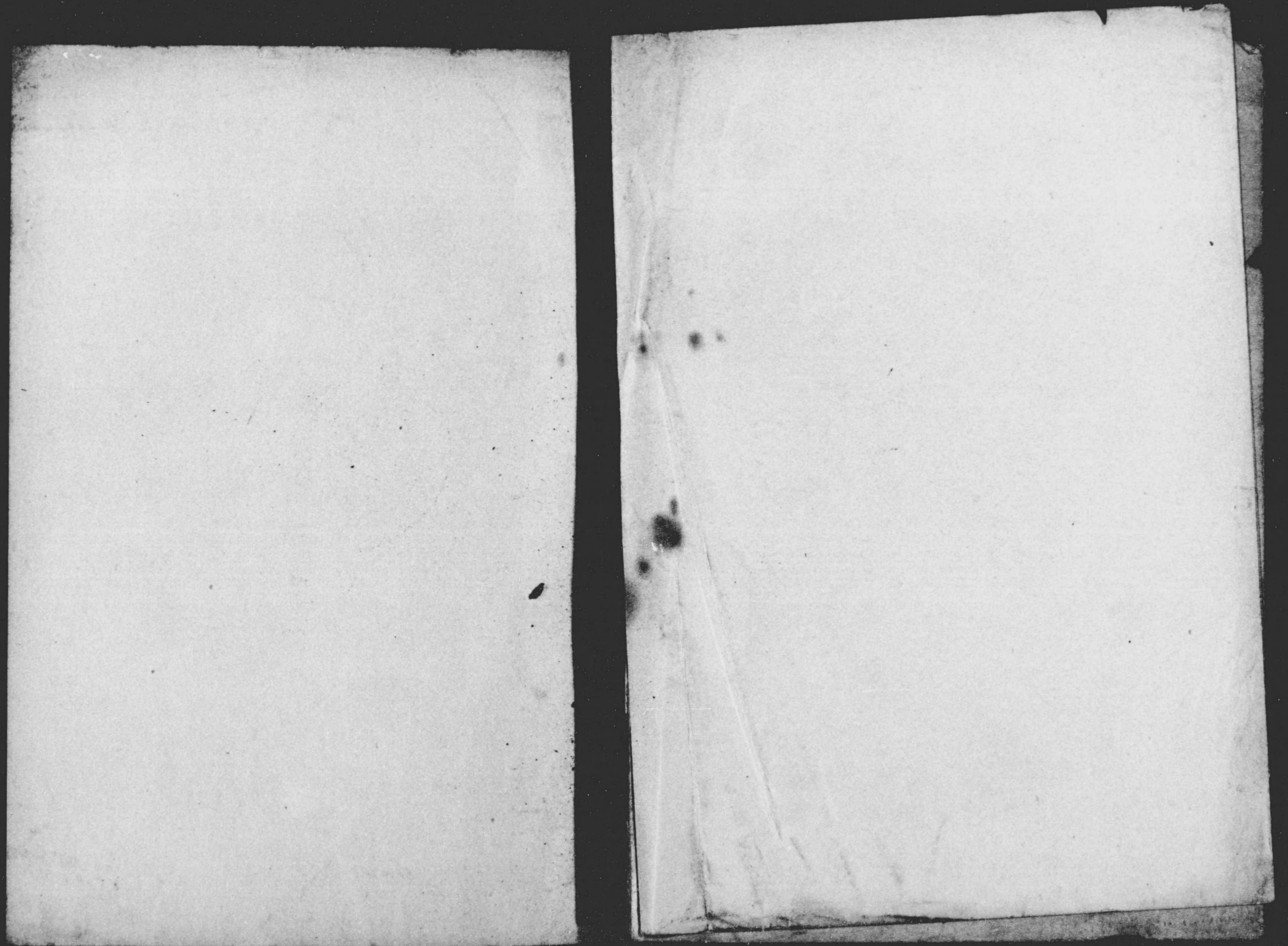
定價金貳圓八拾錢

送料十八錢

最新刊

最近十數ヶ年間に全國に於て施行された普通文官裁判所書記警部警部補考査巡査部長等凡ゆる判任文官の登用試験問題を蒐集し之を系統的に配列して適切簡明な模範的解答を與へ容易に第地に邁進せしむるやう編述してある。







4